

(様式第 9)

東医大発第 529 号
平成 21 年 10 月 2 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人東京医
理事長 伊東

東京医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 20 年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照 (様式第 10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照 (様式第 11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	76.3 人
--------	--------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照 (様式第 12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照 (様式第 13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	609人	167人	626.2人	看護業務補助	91人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	29人	5人	29.6人	理学療法士	8人	臨床検査技師	100人
薬剤師	54人	0人	54.0人	作業療法士	3人	衛生検査技師	2人
保健師	6人	0人	6.0人	視能訓練士	8人	その他	1人
助産師	33人	0人	33.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	1人
看護師	894人	14人	904.3人	臨床工学技士	14人	医療社会事業従事者	6人
准看護師	6人	0人	6.0人	栄養士	4人	その他の技術員	10人
歯科衛生士	1人	0人	1.0人	歯科技工士	2人	事務職員	240人
管理栄養士	9人	4人	9.7人	診療放射線技師	65人	その他の職員	13人

- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数
 歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	706人	8人	714人
1日当たり平均外来患者数	2,598人	80人	2,678人
1日当たり平均調剤数	758 剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数 (毎日の 24 時現在の在院患者数の合計) を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 先進医療の届出受理の有無及び取扱い患者数

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション(前十字靭帯損傷又は後十字靭帯損傷に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
凍結保存同種組織を用いた外科治療(心臓弁又は血管を用いるものであって、組織の凍結保存及び外科治療を同一施設内で行うものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
胎児心超音波検査(産科スクリーニング胎児超音波検査において心疾患が強く疑われる症例に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
インプラント義歯(顎骨の過度の吸収により、従来の可撤性義歯では咀嚼機能の回復が困難なものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
顎顔面補綴(腫瘍手術、外傷及び炎症その他の原因により顔面領域に生じた広範囲の実質欠損に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
顎関節症の補綴学的治療(顎関節症(顎関節内障、下顎頭の著しい変形及び顎関節円板の断裂を除く。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法(神経の障害による運動麻痺又は骨・関節手術後の筋萎縮に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
光学印象採得による陶材歯冠修復法(歯冠部齶蝕の修復に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
経皮的レーザー椎間板減圧術(内視鏡下によるものを含み、椎間板ヘルニアに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定(白血病、悪性リンパ腫又は多発性骨髄腫その他の造血器悪性腫瘍に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法(手術が予定されている者で、悪性高熱症が強く疑われる者に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
CTガイド下気管支鏡検査(肺腫瘍に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
先天性血液凝固異常症の遺伝子診断(アンチトロンビン欠乏症、第Ⅶ因子欠乏症、先天性アンチトロンビンⅢ欠乏症、先天性ヘパリンコファクターⅡ欠乏症又は先天性プラスミノゲン欠乏症に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
筋強直性又は筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
SDI法による抗悪性腫瘍感受性試験(消化器がん、頭頸部がん、乳がん、肺がん、がん性胸・腹膜炎、子宮頸がん、子宮体がん又は卵巣がんに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
三次元形状解析による顔面の形態的診断(頭蓋、顔面又は頸部の変形性疾患に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
HDRA法又はCD-DST法による抗悪性腫瘍感受性試験(消化器がん(根治度Cの胃がんを除く。)、頭頸部がん、乳がん、肺がん、がん性胸・腹膜炎、子宮頸がん、子宮体がん又は卵巣がんに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断(子宮頸部軽度異形成に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
腹腔鏡下肝部分切除術(肝外側区域切除術を含み、肝腫瘍に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
悪性腫瘍に対する陽子線治療(固形がんに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
エキシマレーザーによる治療的角膜切除術(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
成長障害のDNA診断(特発性低身長症に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術(内視鏡的治療若しくは薬物治療抵抗性の食道静脈瘤又は胃静脈瘤、門脈圧亢進症性胃腸症、難治性腹水又は難治性肝性胸水に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術(主に乳房温存手術が可能なステージⅠ又はⅡの乳がんに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
声帯内自家側頭筋膜移植術(一側性反回神経麻痺又は声帯溝症に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
骨髄細胞移植による血管新生療法(閉塞性動脈硬化症又はバージャー病(従来の治療法に抵抗性のもので、フォンタン分類Ⅲ度又は同分類Ⅳ度のものに限る。))に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
ミトコンドリア病のDNA診断(高乳酸血症その他のミトコンドリア機能低下が疑われる疾患に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
鏡視下肩峰下腔徐圧術(透析アミロイド肩関節症又は腱板断裂、五十肩若しくは関節リウマチその他の原因による肩インピンジメント症候群に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
神経変性疾患のDNA診断(ハンチントン舞蹈病、脊髄小脳変性症、球脊髄性筋萎縮症、家族性筋萎縮性側索硬化症、家族性低カリウム血症性周期性四肢麻痺又はマックリード症候群その他の神経変性疾患に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
難治性眼疾患に対する羊膜移植術(再発翼状片、角膜上皮欠損(角膜移植によるものを含む。)、角膜穿孔、角膜化学腐食、角膜癒着(スティーブンス・ジョンソン症候群、眼類天疱瘡、熱・化学外傷癒着その他の重症の癒着性角結膜疾患を含む。)、結膜上皮内過形成又は結膜腫瘍その他の眼表面疾患に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
重粒子線治療(固形がんに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術(原発性脊椎腫瘍又は転移性脊椎腫瘍に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
31P-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断(糖尿病性足病変危険群と考えられる糖尿病患者に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
神経芽腫のRNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療(腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊椎管狭窄症又は腰椎手術の実施後の腰下肢痛(保存治療に抵抗性のものに限る。))に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
重症BCG副反応症例における遺伝子診断(BCG副反応症例又は非定形抗酸菌感染で重症、反復若しくは難治である場合に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植	有・ <input type="radio"/> 無	0人
膵腫瘍に対する腹腔鏡補助下膵切除術(インスリノーマ、脾動脈瘤、粘液性嚢胞腫瘍、膵管内腫瘍その他の膵良性腫瘍に係る膵体尾部切除又は核出術に限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断(マントル細胞リンパ腫の補助診断として用いるものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
悪性脳腫瘍に対する抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・ <input type="radio"/> 無	0人
Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断(急性期又は慢性期のQ熱に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
エキシマレーザー冠動脈形成術(経皮的冠動脈形成術(エキシマレーザー冠動脈形成術を除く。))による治療が困難なもの、慢性完全閉塞のもの又はこれに準ずるものに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
活性化Tリンパ球移入療法(原発性若しくは続発性の免疫不全症の難治性日和見感染症又は慢性活動性EBウイルス感染症に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術(膀胱尿管逆流症(国際分類グレードⅤの高度逆流症を除く。))に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人
泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術(泌尿生殖器腫瘍のリンパ節転移例又は画像上リンパ節転移が疑われるものに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植(HLA適合ドナーがないために造血幹細胞移植が受けられない小児のがん、難治性造血障害又は免疫不全症に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
頸椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによるCT透視下の経皮的椎間板減圧術(頸椎椎間板ヘルニア(画像診断上椎間板繊維輪の破綻していないヘルニアであって、神経根症が明らかであり保存治療に抵抗性のも(後縦靭帯骨化症、脊椎管狭窄状態又は脊椎症状のあるものを除く。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
ケラチン病の遺伝子診断(水疱型魚鱗癬様紅皮症又は単純型表皮水疱症その他の遺伝子異常に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
末梢血単核球移植による血管再生治療(慢性閉塞性動脈硬化症又はバージャー病(従来の内科的治療又は外科的治療が無効であるもの)に限り、三年以内の悪性新生物の既往又は未治療の糖尿病性網膜症のあるものを除く。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
末梢血単核球移植による血管再生治療(慢性閉塞性動脈硬化症又はバージャー病(従来の内科的治療又は外科的治療が無効であるもの)に限り、三年以内の悪性新生物の既往又は未治療の糖尿病性網膜症のあるものを除く。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術(双胎間輸血症候群に罹患した一絨毛膜性双胎妊娠の症例(妊娠十六週から二十六週に限る。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法(肺がん又は気管支前がん病変に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
先天性銅代謝異常症の遺伝子診断(ウィルソン病、メンケス病又はオクシピタルホーン症候群に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
超音波骨折治療法(四肢の骨折(治療のために手術中に行われるものを除く。))のうち、観血的手術を実施したもの(開放骨折又は粉碎骨折に係るものを除く。))に係るものに限る。)	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテーラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法(ヘリコバクター・ピロリ感染を伴う胃潰瘍又は十二指腸潰瘍に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存(骨又は靭帯の再建術であって、先天性疾患、外傷性(欠損性又は感染性偽関節に係るもの)に限る。)、骨腫瘍切除後、関節固定術時若しくは人工関節置換術時(初回又は再置換術時に限る。))の広範囲骨欠損、脊椎固定術時の骨融合促進又は靭帯断裂による関節不安定性に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術(難治性根尖性歯周炎であって、通常の根管治療では効果が認められないもの)に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価(骨粗鬆症、骨変形若しくは骨腫瘍又は骨腫瘍掻爬術後若しくは骨髄炎掻爬術後の症状に係るもの)に限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
膀胱水圧拡張術(間質性膀胱炎に係るもの)に限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
色素性乾皮症に係る遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
歯周外科治療におけるバイオ-リジェネレーション法(歯周炎による重度垂直性骨欠損に係るもの)に限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術(人工股関節のたるみに係るもの)に限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
腹腔鏡下直腸固定術(直腸脱に係るもの)に限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
骨移動術による関節温存型再建(骨軟部腫瘍切除後の骨欠損に係るもの)に限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
肝切除手術における画像支援ナビゲーション(原発性肝がん、肝内胆管がん、転移性肝がん又は生体肝移植ドナーに係るもの)に限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法(腫瘍抗原を発現する消化管悪性腫瘍(食道がん、胃がん又は大腸がん)、進行再発乳がん又は原発性若しくは転移性肺がん)に係るもの)に限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法(がん性の胸水、腹水又は進行がんに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法(がん性の胸水、腹水又は進行がんに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
リアルタイムPCRを用いた迅速診断(EBウイルス感染症に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術(尿管腫瘍、膀胱腫瘍、後腹膜腫瘍、後腹膜リンパ節腫瘍(精巣がんから転移したのものに限る。))又は骨盤リンパ節腫瘍(泌尿器がんから転移したのものに限る。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術(白内障に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
先天性難聴の遺伝子診断(遺伝性による先天性難聴が疑われるものに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
フェニルケトン尿症の遺伝子診断(フェニルケトン尿症、高フェニルアラニン血症又はビオプテリン反応性フェニルアラニン水酸化酵素欠損症に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
培養細胞による先天性代謝異常診断(先天性代謝異常(ライソゾーム病に限る。))に罹患する可能性の高い胎児もしくは新生児又は先天性代謝異常(ライソゾーム病に限る。))が疑われる小児に係るものであって、酵素補充療法による治療が出来ないものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
腹腔鏡下子宮体がん根治手術(手術進行期分類I b期までの子宮体がんに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
RET遺伝子診断(甲状腺髄様癌に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
角膜ジストロフィの遺伝子解析(角膜ジストロフィと診断された症例に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
強度変調放射線治療(限局性の固形悪性腫瘍(頭頸部腫瘍、前立腺腫瘍又は中枢神経腫瘍であって、原発性のものを除く。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
マイクロ波子宮内膜アブレーション(機能性及び器質性過多月経(ただし、妊孕性の温存が必要な場合又は子宮内膜がん、異型内膜増殖症その他の悪性疾患又はその疑いがある場合を除く。))であって、子宮壁厚十ミリメートル以上の症例に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
抗EGFR抗体医薬投与前におけるKRAS遺伝子変異検査(EGFR陽性の治癒切除不能な進行又は再発の結腸又は直腸がんに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助(ICD-10(統計法第二十八条及び附則第三条の規定に基づき、疾病、傷害及び死因に関する分類の名称及び分類表を定める件(平成二十一年総務省告示第七十六号)の「(1) 疾病、傷害及び死因の統計分類基本分類表」に規定する分類をいう。))においてF2(統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害)に分類される疾病及びF3(気分(感情)障害)に分類される疾病のいずれかの疾病の患者であることが強く疑われるうつ症状の者(器質的疾患に起因するうつ症状の者を除く。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術(下肢慢性静脈不全症(下腿の広範囲の皮膚に色素沈着、硬化若しくは萎縮が起こり、又は潰瘍を有するとともに、超音波検査により穿通枝の血液が逆流していることが確認され、かつ、従来の外科的治療法の実施により根治性が期待できないものに限る。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
歯科用CAD・CAMシステムを用いたハイブリッドレジンによる歯冠補綴(小臼歯の重度の齲蝕に対して全部被覆冠による歯冠補綴が必要な場合に限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層切離術(早期大腸がん(EMR(内視鏡的粘膜切除術をいう。以下同じ。))では一括切除が困難な二センチメートル以上の病変であって、拡大内視鏡診断又は超音波内視鏡診断による十分な術前評価の結果、根治性が期待できるものに限る。))又は腺腫(EMRを実施した際の病変の挙上不良なもの又はEMRを実施した後に遺残又は再発したものであってEMRでは切除が困難な一センチメートル以上の病変のものに限る。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
実物大臓器立体モデルによる手術支援(骨盤、四肢骨又は関節に著しい変形又は欠損を伴う疾患又は外傷に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
無拘束型多点感圧シートセンサを用いた検査(閉塞性睡眠時無呼吸症候群が強く疑われる症状(習慣性がある激しいいびき、日中の傾眠等をいう。))及び所見(肥満、薬物療法に対して抵抗性を有する高血圧等をいう。))が認められる者又は中枢性睡眠時無呼吸症候群が強く疑われる慢性心不全の者に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術(頸部良性腫瘍に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術(転移性脊椎骨腫瘍、骨粗鬆症による脊椎骨折又は難治性疼痛を伴う椎体圧迫骨折若しくは臼蓋骨折に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人
カフェイン併用化学療法(骨肉腫、悪性線維性組織球腫、滑膜肉腫又は明細胞肉腫その他の骨軟部悪性腫瘍に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
胎児尿路・羊水腔シャント術(プルーン・ベリー症候群その他の胎児閉塞性尿路疾患に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
筋過緊張に対するmuscle afferent block(MAB)治療(ジストニア、痙性麻痺その他の局所の筋過緊張を呈する病態に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法(胸部悪性腫瘍(従来の外科的治療法の実施が困難なもの又は外科的治療法の実施により根治性が期待できないものに限る。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法(腎悪性腫瘍(従来の外科的治療法の実施が困難なもの又は外科的治療法の実施により根治性が期待できないものに限る。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
内視鏡下甲状腺がん手術(手術の実施後、予後の良い甲状腺乳頭がんに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法(転移性骨腫瘍で既存の治療法により制御不良なもの又は類骨腫(診断の確実なものに限る。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法(一次性下肢静脈瘤に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術(特発性又は既知の胎児先天性感染による胸水を主たる徴候とする非免疫性胎児水腫症(NIHIF)例であって、胸腔穿刺後一週間以降に胸水の再貯留が認められるもの(妊娠二十週から三十四週未満に限る。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法(二次性副甲状腺機能亢進症に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
腹腔鏡補助下肝切除術(部分切除及び外側区域切除を除く。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
根治的前立腺全摘除術における内視鏡下手術用ロボット支援(前立腺がんに係るものに限る。)	<input checked="" type="radio"/> 有・無	6人
内視鏡下手術用ロボットを用いた冠動脈バイパス手術(虚血性心疾患に係るものであって、一箇所を吻合するものに限る。)	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人

(注)1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	111人	・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	28人
・多発性硬化症	58人	・ウェゲナー肉芽腫症	39人
・重症筋無力症	78人	・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	50人
・全身性エリテマトーデス	320人	・多系統萎縮症	6人
・スモン	0人	・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1人
・再生不良性貧血	71人	・膿疱性乾癬	11人
・サルコイドーシス	91人	・広範脊柱管狭窄症	9人
・筋萎縮性側索硬化症	13人	・原発性胆汁性肝硬変	58人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	123人	・重症急性膵炎	5人
・特発性血小板減少性紫斑病	121人	・特発性大腿骨頭壊死症	16人
・結節性動脈周囲炎	12人	・混合性結合組織病	22人
・潰瘍性大腸炎	196人	・原発性免疫不全症候群	6人
・大動脈炎症候群	23人	・特発性間質性肺炎	8人
・ビュルガー病	63人	・網膜色素変性症	52人
・天疱瘡	14人	・プリオン病	3人
・脊髄小脳変性症	50人	・原発性肺高血圧症	2人
・クローン病	63人	・神経線維腫症	9人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・悪性関節リウマチ	10人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	4人
・パーキンソン病関連疾患	105人	・特発性慢性肺血栓塞栓症(肺高血圧型)	1人
・アミロイドーシス	4人	・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	2人
・後縦靭帯骨化症	86人	・副腎白質ジストロフィー	1人
・ハンチントン病	0人		

(注) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

3 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ②. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。		
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1ヶ月に4回程度(「臨床病理検討会」を毎月最終月曜日に定例開催)		
剖検の状況	剖検症例数	66 例	剖検率 7.1 %

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元
マウスおよびヒトぶどう膜炎における抑制性補助シグナル分子の役割	臼井 嘉彦	眼科学	1,000	補委 文部科学省
ベーチェット病における疾患特異的自己抗原のプロテオミクスによる網羅的解析	奥貫 陽子	眼科学	1,500	補委 文部科学省
補助刺激分子の関わる血管新生の新しいメカニズムと治療法の開発	服部 貴明	眼科学	2,700	補委 文部科学省
難治性ぶどう膜炎におけるタクロリムスの神経保護の解明と臨床応用に向けた開発	大井 桂子	眼科学	1,300	補委 文部科学省
角膜移植免疫におけるTh17細胞の役割	櫻井 裕	眼科学	1,500	補委 文部科学省
赤外線観察カメラシステムを用いた肺癌センチネルリンパ節ナビゲーション手術の開発	一ノ瀬 修二	外科学(1)	600	補委 文部科学省
経皮TLRリガンド免疫法を用いた肝炎ウイルスに対するワクチン開発	古市 好宏	内科学(4)	1,100	補委 文部科学省
眼内悪性腫瘍における新規免疫療法の開発	後藤 浩	眼科学	1,800	補委 日本学術振興会
難治性ぶどう膜炎に対する神経ペプチド遺伝子導入ヒト免疫制御細胞の開発	毛塚 剛司	眼科学	1,200	補委 日本学術振興会
領域別診療フレーム解析を用いた救急医療における医療安全と質保証に関する研究	織田 順	救急医学	2,300	補委 日本学術振興会
呼吸器悪性腫瘍(肺癌および中皮腫)の生物学的性格に基づく新規診断・治療戦略の構築	平野 隆	外科学(1)	3,500	補委 日本学術振興会
肺癌セルライン樹立とその利用に関する研究	野村 将春	外科学(1)	800	補委 日本学術振興会
発作性頭位めまい症の発症メカニズムとエストロゲンの前庭器内局在に関する基礎的研究	鈴木 衛	耳鼻咽喉科学	700	補委 日本学術振興会
肺胞II型上皮細胞の内因性機能異常を起点とする肺線維化機序の分子生物学的研究	瀬戸口 靖弘	内科学(1)	1,800	補委 日本学術振興会
慢性骨髄性白血病におけるDNA修復エラーの分子病態と微小残存病変の制御の研究	田内 哲三	内科学(1)	1,200	補委 日本学術振興会
高齢化社会を豊かにするIT活用医療支援システムの構築:ICタグによる尿失禁検知	秦野 直	泌尿器科学	4,100	補委 日本学術振興会
NF-κB活性阻害剤の尿路上皮癌への抗癌剤としての応用	堀口 裕	泌尿器科学	1,100	補委 日本学術振興会
創傷治癒過程におけるToll様受容体シグナルの役割	坪井 良治	皮膚科学	1,500	補委 日本学術振興会
早期アルツハイマー病(軽度認知障害を含む)の画像診断	羽生 春夫	老年病学	500	補委 日本学術振興会
吸入麻酔ターゲット因子の新規定量解析による麻酔作用機序の考究	松本 晶平	麻酔科学	1,600	補委 日本学術振興会
新規脳保護法を導く脳内トランスポーターコントロールの解明	室園 美智博	麻酔科学	1,100	補委 日本学術振興会
悪性胸膜中皮腫に対する新たな集学的治療の開発-ALIMTAとPDTの併用	白田 実男	外科学(1)	1,000	補委 日本学術振興会
地域・職域における生活習慣病予防活動・疾病管理による医療費適正化効果に関する研究	織田 順	救急医学	2,000	補委 厚生労働省
高度医療技術の効率化及び標準化の開発に関する研究	池田 徳彦	外科学(1)	1,500	補委 厚生労働省
システム生物学的的方法論による癌のバイオマーカー及び分子標的の探索	平野 隆	外科学(1)	3,300	補委 厚生労働省
がん検診に有用な新しい腫瘍マーカーの開発	西村 俊秀	外科学(1)	2,500	補委 厚生労働省

小計 26

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元	
難治性血管炎に関する調査研究	重松 宏	外科学(2)	2,000	補委	厚生労働省
再発高危険群の大腸がんに対する術後補助療法の確立に関する研究	青木 達哉	外科学(3)	1,000	補委	厚生労働省
臨床病期II・IIIの下部直腸癌に対する側方リンパ節郭清術の意義に関するランダム化比較試験	青木 達哉	外科学(3)	1,500	補委	厚生労働省
人由来組織利用研究円滑化のための社会的・技術的インターフェースの整備	青木 達哉	外科学(3)	800	補委	厚生労働省
がん検診に有用な新しい腫瘍マーカーの開発	土田 明彦	外科学(3)	3,000	補委	厚生労働省
進行頭頸部癌に対する漢方治療の有用性評価	鈴木 衛	耳鼻咽喉科学	1,000	補委	厚生労働省
前庭機能異常に関する調査研究	鈴木 衛	耳鼻咽喉科学	1,000	補委	厚生労働省
小児等の特殊患者に対する医薬品の製剤改良 その他有効性及び安全性の確保のあり方に関する研究	河島 尚志	小児科学	500	補委	厚生労働省
小児等の特殊患者に対する医薬品の製剤改良 その他有効性及び安全性の確保のあり方に関する研究	宮島 祐	小児科学	500	補委	厚生労働省
脊柱靭帯骨化症に関する調査研究	山本 謙吾	整形外科	1,000	補委	厚生労働省
国内外の精神科医療における疾病分類に関する研究	飯森 眞喜雄	精神医学	7,500	補委	厚生労働省
国内外の精神科医療における疾病分類に関する研究	丸田 敏雅	精神医学	1,130	補委	厚生労働省
骨髄異形成症候群に対する病態解明・治療法の開発に関する研究	大屋敷 一馬	内科学(1)	3,000	補委	厚生労働省
難治性白血病に対する標準的治療法の確立に関する研究	伊藤 良和	内科学(1)	500	補委	厚生労働省
多施設共同研究に登録された白血病の検体収集と中央保存システムの確立	田内 哲三	内科学(1)	700	補委	厚生労働省
門脈血行異常症に関する調査研究	森安 史典	内科学(4)	13,000	補委	厚生労働省
肝癌早期発見を目的とした分子マーカーおよび画像診断システムの開発	森安 史典	内科学(4)	3,000	補委	厚生労働省
国内未承認エイズ治療薬等を用いたHIV感染症治療薬及びHIV感染症至適治療法の開発に係る応用研究	福武 勝幸	臨床検査医学	84,580	補委	厚生労働省
血友病の治療とその合併症の克服に関する研究	天野 景裕	臨床検査医学	1,500	補委	厚生労働省
治療の実施に関する研究[PDT半導体レーザー・タラポルフィンナトリウム]	秋元 治朗	脳神経外科学	1,000	補委	厚生労働省
血液サンプルを用いた、難治性固形癌のがん薬物療法の効果予測因子の臨床的有効性の検討	池田 徳彦	外科学(1)	1,500	補委	厚生労働省
呼吸器悪性腫瘍に対する標準的治療確立のための多施設共同研究	池田 徳彦	外科学(1)	2,500	補委	厚生労働省
成人難治性白血病の分子生物学的特徴に基づく治療法に関する研究	大屋敷 一馬	内科学(1)	1,600	補委	厚生労働省
「メタボリック・シンドローム関連疾患における個別化医療の実現」(閉塞性動脈硬化症における個別化医療の実現)	重松 宏	外科学(2)	6,360	補委	文部科学省 科学技術振興費
多視点化による「共有する医療」の実現に向けた研究	行岡 哲男	救急医学	2,050	補委	科学技術振興機構 社会技術研究開発事業
Study the combined effects of MK -0457 and vorinostat and dasatinib on T3151 BCR-ABL and wild type-(WT) BCR-ABL in vivo (mice)	田内 哲三	内科学第一講座	36,970	補委	Merck & Co., Inc.

小計 26
合計 52

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Autophagy	Vitamin K2 induces autophagy and apoptosis simultaneously in leukemia cells.	Yokoyama T, Miyazawa K, Naito M, Toyotake J, Tauchi T, Itoh M, Yuo A, Hayashi Y, Georgescu MM, Kondo Y, Kondo S, Ohyashiki K.	内科学第一講座
Int J Hematol.	Leukocytosis is linked to thrombosis at diagnosis, while JAK2 V617F mutation is associated with thrombosis during the course of essential thrombocythemia.	Ohyashiki K, Kiguchi T, Ito Y, Fujimoto H, Gotoh A, Tauchi T, Miyazawa K, Kimura Y, Ohyashiki JH.	内科学第一講座
Cancer Sci.	Activity of a novel Aurora kinase inhibitor against the T315I mutant form of BCR-ABL: in vitro and in vivo studies.	Akahane D, Tauchi T, Okabe S, Nunoda K, Ohyashiki K.	内科学第一講座
Int J Hematol.	Relapse of chronic myeloid leukemia-chronic phase 14 years after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation.	Akahane D, Ito Y, Sumi M, Tauchi T, Kimura Y, Ohyashiki K.	内科学第一講座
Leuk Res.	Compliance with taking imatinib mesylate in patients with chronic myeloid leukemia in the chronic phase.	Kiguchi T, Tauchi T, Ito Y, Miyazawa K, Kimura Y, Ohyashiki K.	内科学第一講座
Int J Hematol.	Karyotypically independent clones with del(11q) and trisomy 10 in acute myeloid leukemia: trisomy 10 may appear as an additional change.	Gotoh M, Sasaki Y, Iguchi T, Fujimoto H, Kodama A, Kiyoi H, Naoe T, Ohyashiki K.	内科学第一講座
Int J Hematol.	Japanese epidemiological survey with consensus statement on Japanese guidelines for treatment of iron overload in bone marrow failure syndromes.	Suzuki T, Tomonaga M, Miyazaki Y, Nakao S, Ohyashiki K, Matsumura I, Kohgo Y, Niitsu Y, Kojima S, Ozawa K.	内科学第一講座
Int J Hematol.	A safety, pharmacokinetic and pharmacodynamic investigation of deferasirox (Exjade, ICL670) in patients with transfusion-dependent anemias and iron-overload: a Phase I study in Japan	Miyazawa K, Ohyashiki K, Urabe A, Hata T, Nakao S, Ozawa K, Ishikawa T, Kato J, Tatsumi Y, Mori H, Kondo M, Taniguchi J, Tanii H, Rojckjaer L, Omine M.	内科学第一講座

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Leukemia.	Myelodysplastic syndrome with chromosome 5 abnormalities: a nationwide survey in Japan.	Tasaka T, Tohyama K, Kishimoto M, Ohyashiki K, Mitani K, Hotta T, Kanamaru A, Okamoto S, Karasawa M, Kimura A, Tomonaga M, Uchiyama T, Ozawa K; Japanese Cooperative Study Group for Intractable Bone Marrow Diseases.	内科学第一講座
Am J Hematol	Consensus statement on iron overload in myelodysplastic syndromes.	Bennett JM; MDS Foundation's Working Group on Transfusional Iron Overload.	内科学第一講座
Am J Hematol.	Multicenter prospective trial evaluating the tolerability of imatinib for Japanese patients with chronic myelogenous leukemia in the chronic phase: does body weight matter?	Kanda Y, Okamoto S, Tauchi T, Kizaki M, Inokuchi K, Yabe M, Yokoyama K, Ito Y, Kimura Y, Higashihara M, Bessho M, Ando K, Chiba S, Kurokawa M, Oshimi K, Dan K, Ohyashiki K, Ikeda Y; Tokyo STI Study Group (TSSG).	内科学第一講座
Cancer Genet Cytogenet.	Recurrent der(9;18) in essential thrombocythemia with JAK2 V617F is highly linked to myelofibrosis development.	Ohyashiki K, Kodama A, Ohyashiki JH.	内科学第一講座
Clin Cancer Res.	Characteristics of dasatinib- and imatinib-resistant chronic myelogenous leukemia cells.	Okabe S, Tauchi T, Ohyashiki K.	内科学第一講座
Int J Hematol.	Current and future perspectives on the TARGET system: the registration system for Glivec established by the JSH.	Kizaki M, Okamoto S, Tauchi T, Tanaka H, Tanimoto M, Inokuchi K, Murayama T, Saburi Y, Hino M, Tsudo M, Shimomura T, Isobe Y; TARGET Investigators.	内科学第一講座
Rinsho Ketsueki.	HIV-related multiple non-Hodgkin lymphomas	Gotoh M, Kitahara T, Iguchi T, Izumi M, Mukai K, Ohyashiki K.	内科学第一講座
Arch Pathol Lab Med.	Telomerase activity in effusions: a comparison between telomere repeat amplification protocol in situ and conventional telomere repeat amplification protocol assay.	Hansson M, Zendeherokh N, Ohyashiki J, Ohyashiki K, Westman UB, Roos G, Dejmek A.	内科学第一講座

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Rinsho Ketsueki.	Molecular relapse of chronic myeloid leukemia after discontinuation of imatinib mesylate for maintaining complete molecular response for more than 2 years	Kiguchi T, Tauchi T, Ohyashiki K.	内科学第一講座
Int J Hematol.	Enhanced expression of the EVI1 gene in NUP98/HOXA-expressing leukemia cells.	Eguchi-Ishimae M, Eguchi M, Ohyashiki K, Yamagata T, Mitani K.	内科学第一講座
Biochem Biophys Res Commun.	Mechanism of MK-0457 efficacy against BCR-ABL positive leukemia cells.	Okabe S et al.	内科学第一講座
Brit J Haematol.	Prospective monitoring of BCR-ABL1 transcript levels in patients with Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukaemia undergoing imatinib-combined chemotherapy.	Yanada M et al.	内科学第一講座
Hypertens Res 31(11): 2019-2025, 2008	The relationships of cardiovascular disease risk factors to flow-mediated dilatation in Japanese subjects free of cardiovascular disease	Tomiyaama H.	内科学第二講座
Osteoporos Int 19(8): 1185-1192, 2008	Link between obstructive sleep apnea and increased bone resorption in men	Tomiyaama H.	内科学第二講座
Hypertension Res 31(6): 1087-1092, 2008	Overweight body mass index classification modifies arterial stiffening associated with weight gain in healthy middle-aged Japanese men	Yamada J.	内科学第二講座
J Cardiol 51(2): 114-120, 2008	Effects of azelnidipine on the autonomic functions and its influence on arterial stiffness and endothelial functions	Yamada J.	内科学第二講座
Ann Nucl Med 22(3): 185-190, 2008	Differential effects comparing exercise and pharmacologic stress on left ventricular function using gated Tc-99 sestamibi SPECT	Ohtaki Y.	内科学第二講座
J Cardiol 51(3): 163-170, 2008	Brachial-ankle pulses wave velocity as a marker of subclinical organ damage in middle-aged patients with hypertension	Matsumoto C.	内科学第二講座
Hypertension Res 32(2): 122-126, 2009	Synergistic effect of smoking and blood pressure on augmentation index in men, but not in women	Tomiyaama H.	内科学第二講座
Hypertension Res 32(2): 127-132, 2009	Association of blood pressure levels with the effects of alcohol intake on the vasculature in Japanese men	Matsumoto C.	内科学第二講座
Hypertension Res 32(3): 201-206, 2009	Concomitant existence and interaction of cardiovascular abnormalities in obstructive sleep apnea subjects with normal clinic blood pressure	Tomiyaama H.	内科学第二講座
J Cardiol 53(1): 43-52, 2009	Important parameters in the detection of left main trunk disease using stress myocardial perfusion imaging	Shiba C.	内科学第二講座

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Nuclear Cardiology 16(1): 20-27, 2009	Diagnostic value of left ventricular function after adenosine triphosphate loading and at rest in the detection of multi-vessel coronary artery disease using myocardial perfusion imaging	Hida S.	内科学第二講座
日本臨床生理学会誌・38 巻・4号・p221-227・ 2008.08.	ストレプトプトシン糖尿病ラット心筋におけるcyclic ADP ribose含量とPioglitazone投与の与える影響について HPLCを用いた新たな測定系の確立	小林高明	内科学第三講座 (糖尿病代謝内分泌内科)
Mod Rheumatol. 18(5):516-21,2008	Acute pan-dysautonomia as well as central nervous system involvement and peripheral neuropathies in a patient with systemic lupus erythematosus	Yukawa S, Tahara K, Shoji A, Hayashi H, Tsuboi N	内科学第三講座 (リウマチ膠原病内科)
Clin Rheumatol. 27(9):1199-201, 2008	Long-term remission by cyclosporine in a patient with eosinophilic fasciitis associated with primary biliary cirrhosis	Tahara K, Yukawa S, Shoji A, Hayashi H, Tsuboi N	内科学第三講座 (リウマチ膠原病内科)
Mod Rheumatol. 18(4):416-21,2008	Dramatic regression of mesenteric abnormalities demonstrated on angiography following prednisolone and cyclophosphamide combination therapy in a patient with polyarteritis nodosa associated with Sjögren's syndrome	Yukawa S, Tahara K, Yukawa N, Shoji A, Tsuji S, Hayashi H, Tsuboi N	内科学第三講座 (リウマチ膠原病内科)
臨床リウマチ 20(3):205- 210,2008	サイトメガロウイルス肺炎の治療中に薬剤性と考えられる肺障害をきたしたループス腎炎の1例	太原恒一郎, 湯川宗之助, 林映, 庄司亜樹, 辻聡一郎, 坪井紀興	内科学第三講座 (リウマチ膠原病内科)
日本臨床免疫学会会誌 31(3):183-189,2008	高齢発症ループス膀胱炎の一例	湯川宗之助, 太原恒一郎, 林映, 辻聡一郎, 庄司亜樹, 坪井紀興	内科学第三講座 (リウマチ膠原病内科)
臨床リウマチ 20(1):35- 40,2008	胸水貯留を伴わない胸膜炎を合併し抗結核剤投与が奏効した膠原病の2症例	太原恒一郎, 湯川宗之助, 庄司亜樹, 辻聡一郎, 林映, 坪井紀興	内科学第三講座 (リウマチ膠原病内科)
アレルギー 57(12).1293-1301,2008	成人気管支喘息患者における治療効果と呼気一酸化窒素濃度(FeNO:The Fraction of Exhaled Nitric Oxide)の変化	粒来 崇博* 森田園子	内科学第三講座 (アレルギー(喘息)内科)
アレルギー 57(8),1012- 1021,2008	成人気管支喘息患者における鼻腔気及びと呼気一酸化窒素濃度(FeNO:The Fraction of Exhaled Nitric Oxide)測定の実際	粒来 崇博* 森田園子	内科学第三講座 (アレルギー(喘息)内科)
Allergol Int 57(3), 223- 229, 2008	Relationship between exhaled nitric oxide measured by two offline methods and bronchial hypersensitivity in Japanese adults with asthma	Tsuburai T.* Morita S.	内科学第三講座 (アレルギー(喘息)内科)
Int J Cancer 122(11): 2526-2534, 2008	V gamma 9 V delta 2 T cell cytotoxicity against tumor cells is enhanced by monoclonal antibody drugs--rituximab and trastuzumab	Tokuyama H, Hagi T*, Mattarollo SR*, Morley J*, Wang Q*, Fai-So H*, Moriyasu F, Nieda M*, Nicol AJ*	内科学第四講座
Gastrointest Endosc 68(3): 455-460, 2008	Endoscopic transpapillary gallbladder drainage in patients with acute cholecystitis in whom percutaneous transhepatic approach is contraindicated or anatomically impossible (with video)	Itoi T, Sofuni A, Itokawa F, Tsuchiya T, Kurihara T, Ishii K, Tsuji S, Ikeuchi N, Tsukamoto S, Takeuchi M, Kawai T, Moriyasu F	内科学第四講座

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Hepatobiliary Pancreat Surg 15(2): 189-195, 2008	Detection of circulating tumor cells in patients with pancreatic cancer: a preliminary result	Kurihara T, Itoi T, Sofuni A, Itokawa F, Tsuchiya T, Tsuji S, Ishii K, Ikeuchi N, Tsuchida A, Kasuya K, Kawai T, Sakai Y, Moriyasu F	内科学第四講座
Hepatogastroenterology 55(82-83): 786-790, 2008	A study of the relationship between Helicobacter pylori microbial susceptibility, 13C-urea breath test values	Kawai T, Kawakami K, Kataoka M, Itoi T, Takei K, Moriyasu F, Takagi Y, Aoki T, Serizawa H, Rimbar E*, Noguchi N*, Sasatsu M*	内科学第四講座
Med Phys 35(5): 1734-1746, 2008	Computer-aided diagnosis for the classification of focal liver lesions by use of contrast-enhanced ultrasonography	Shiraishi J*, Sugimoto K, Moriyasu F, Kamiyama N*, Doi K*	内科学第四講座
Gastrointest Endosc 68(1): 84-90, 2008	Efficacy and safety of 1-step transnasal endoscopic nasobiliary drainage for the treatment of acute cholangitis in patients with previous endoscopic sphincterotomy (with videos)	Itoi T, Kawai T, Sofuni A, Itokawa F, Tsuchiya T, Kurihara T, Kusano C, Saito Y, Gotoda T	内科学第四講座
Invest Radiol 43(12): 829-836, 2008	Optical microscopic findings of the behavior of perflubutane microbubbles outside and inside Kupffer cells during diagnostic ultrasound examination	Liu GJ, Moriyasu F, Hirokawa T, Rexiati M, Yamada M, Imai Y	内科学第四講座
World J Gastroenterol 14(47): 7183-7191, 2008	Usefulness of contrast-enhanced ultrasonography in determining treatment efficacy and outcome after pancreatic cancer chemotherapy	Sofuni A, Itoi T, Itokawa F, Tsuchiya T, Kurihara T, Ishii K, Tsuji S, Ikeuchi N, Moriyasu F	内科学第四講座
J Gastroenterol Hepatol 23 Suppl2: S171-174, 2008	Tailored eradication therapy based on fecal Helicobacter pylori clarithromycin sensitivities	Kawai T, Yamagishi T, Yagi K, Kataoka M, Kawakami K, Sofuni A, Itoi T, Sakai Y, Moriyasu F, Osaka Y, Takagi Y, Aoki T, Rimbara E, Noguchi N, Sasatsu M.	内科学第四講座
J Gastroenterol Hepatol 23 Suppl2: S181-185, 2008	Impact of transnasal ultrathin esophagogastroduodenoscopy (UT-EGD) in the evaluation of esophageal peristaltic function	Kawai T, Yamagishi T, Yagi K, Kataoka M, Kawakami K, Sofuni A, Itoi T, Sakai Y, Moriyasu F, Osaka Y, Takagi Y, Aoki T.	内科学第四講座

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Hepatogastroenterology 55(88): 2116-20, 2008	A study on bone mineral density in patients with Crohn's disease	Oshima T, Taira S, Nonaka M, Hayama Y, Yagi K, Yukawa I, Koh M, Kondo M, Kawakami K, Kawai T, Miyaoka M, Sakai Y, Moriyasu F, Matauoka H, Yamamoto K.	内科学第四講座
Gastrointest Endosc 2009;69:136-41	A novel approach emphasizing preoperative margin enhancement of tumor of the major duodenal papilla using narrow-band imaging in comparison to indigo carmine chromoendoscopy (with video)	Itoi T, Tsuji S, Sofuni A, Itokawa F, Kurihara T, Tsuchiya T, Ishii K, Ikeuchi N, Igarashi M, Gotoda T, Moriyasu F.	内科学第四講座
Gastrointest Endosc 2009;69:509-16	A novel approach emphasizing preoperative margin enhancement of tumor of the major duodenal papilla using narrow-band imaging in comparison to indigo carmine chromoendoscopy (with video)	Itoi T, Itokawa F, Kurihara T, Sofuni A, Tsuchiya T, Ishii K, Tsuji S, Ikeuchi N, Kawai K, Moriyasu F	内科学第四講座
Am J Gastroenterol 2009;104:560-5	Endoscopic sphincterotomy combined with large balloon dilation can reduce the procedure time and fluoroscopy time for removal of large bile duct stones	Itoi T, Itokawa F, Sofuni A, Kurihara T, Tsuchiya T, Ishii K, Tsuji S, Ikeuchi N, Moriyasu F	内科学第四講座
Nucl Med Commun 2008;29:568-573	Prediction of response to donepezil in Alzheimer's disease	金高秀和	老年病科講座
Dement Geriatr Cogn Disord 2008;25:347-353	Neuroanatomical correlates of unawareness of memory deficits in early Alzheimer's disease.	羽生春夫	老年病科講座
J Tokyo Med Univ 66(2): 196-203, 2008	Characteristics of color cognition of schizophrenia patient evaluated by visual evoked potentials and visual event-related potentials	Okada S	精神医学講座
臨床脳波 50(4):197- 201, 2008	統合失調症における非定型及び定型抗精神病薬の認知機能への影響～視覚性事象関連電位による研究～	星野 紀子	精神医学講座
医薬情報研究所, 新薬と 臨床 57(12)	比較的病歴の長い統合失調症の陽性症状に対するプロナンセリンの効果	松田ひろし	精神医学講座
老年問題研究 22:8-14	中越沖地震報告	松田ひろし	精神医学講座
老年問題研究 22:15-17	中越地震後の認知症高齢患者への対応	松田ひろし	精神医学講座
日精協誌 27:145-148, 社会参加をめざして⑩	地域における精神医療—現状と今後の展望—「他職種連携を核に医療サービスの向上を目指す」	山岸恵美子	精神医学講座
第23回柏崎フォーラム抄 録集 p.17	笑いの効能について	松田ひろし	精神医学講座
Mov Disord 23(6): 811- 816, 2008.4.30	Clinical Characteristics of Restless Legs Syndrome in End-Stage Renal Failure and Idiopathic RLS Patients	Enomoto M,	精神医学講座

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Pharmacopsychitry 41(3): 106-114, 2008.5	Effects of Zolpidem on Cyclic Aletrning Pattern,an Objective Marker of Sleep Instability,in Japanese Psychophysiological Insomnia:A Randomized crossover Comparative Study With Placebo	Ozone M	精神医学講座
Sleep and Biological Rhythms 6(3): 139-145, 2008.7	Email-based epidemiological surveys on restless legs syndrome in japan	Nomura T	精神医学講座
Tohoku J. Exp. Med. 215(4): 349-354, 2008.8	Prevalence of Complex Apnea Among Japanese Patients with Sleep Apnea Syndrome	Endo Y	精神医学講座
Tohoku J. Exp. 216(1): 95-98, 2008.9	The Prevalence ofProbable Delayed Sleep Phase Syndrome in Syndrome in Students from Junior High School to University in Tottri,Japan	Hazama G	精神医学講座
Behavioral Sleep Medicine 6(4): 220-233, 2008.10	Bedtime Activites,Sleep Environment,and Sleep/Wake Patterns of Japanese Elementary School Children	Oka Y	精神医学講座
Auris Nasus Larynx 36(2): 187-191, 2008.11.13	Clinical significance of upper airway obsteuction pattern during apneic episodes on ultrafast dynamic magnetic resonance imaging	Moriwaki H	精神医学講座
Sleep Med 9(8): 851-856, 2008.12	Clinical significance and correlates of behaviorally induced insufficient sleep syndrome	Komada Y	精神医学講座
Mov Disord 23(16): 2363-2369, 2008.12	Prevalence of restless legs syndrome in a rural community in Japan	Nomura T	精神医学講座
J Clin Sleep Med 4(6): 572-578, 2008.12	Health-related quality of life among drug-navie patients with narcolepsy with cataplexy,narcolepsy without cataplexy,and idiopathic hypersomnia without long sleep time	Ozaki A	精神医学講座
Mov Disord 24(2): 268-273, 2009.1	Odor identification test as an indicator of idiopathic REM sleep behavior disorder	Miyamoto T	精神医学講座
Chest 135(2): 337-343, 2009.2	Gender differences in the clinical characteristics among Japannease patients with obstructive sleep apnea syndrome	Yukawa K	精神医学講座
Sleep 32(2): 181-187, 2009	CSF histamine contents in Narcolepsy,idiopathic hypersomnia and obstructive sleep apnea syndrome	Kanbayashi T	精神医学講座
Sleep Med.Epub ahead of print	Development of a Japanese version of the Epworth Sleepiness Scale(JESS)based on Item Response Theory	Takegami M	精神医学講座

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Sleep Med.,in press	Comparison of severity of obstructive sleep apnea degree of accumulation of cardiac(123)I-MIBG radioactivity as a diagnostic marker for idiopathic REM sleep behavior disorder	Miyamoto T	精神医学講座
精神科治療学 24(1): 125-132, 2009	睡眠相後退症候群に対するメラトニン治療効果とその臨床背景に関する研究	駒田 陽子	精神医学講座
精神科治療学 24(29): 219-225, 2009	日本語版不眠重症度質問票の開発	宗澤 岳史	精神医学講座
精神医学 50(1):7-9, 2009	いまなぜ「精神医学的コミュニケーション」なのか?	飯森眞喜雄	精神医学講座
精神神経学雑誌 1101(9):813-818, 2008	ICD-11作成の動き	丸田 敏雅	精神医学講座
Psychiatry and Clinical Neurosciences 62: 741-743, 2008	Schizo-nomenclature: a new condition?	Maruta T	精神医学講座
Scand J infect Dis	Cerebral fluid analysis in children with seizures from respiratory syncytial virus infection	河島尚志	小児科学講座
Pediatric Neurology 39(29),80-84, 2008	Cerebral fluid Diacron-Reactive Oxygen Metabolite levels in pediatric patients with central nervous system diseases	山中 岳	小児科学講座
Neurochemical research 33(6), 1017-23, 2008	Increased nitric oxide production and GFAP expression in the brains of influenza A/NWS virus infected mice	渡辺知愛子	小児科学講座
Experimental Cell Research 314, 246-254, 2008	Interferon- α induces transient upregulation of c-FLIP through NF- κ B activation	金高由紀	小児科学講座
Clinical Reumatology 27, 277-9, 2008	Extreme efficiency of anti-interleukin 1 agent (anakinra) in a Jaapanese case of CINCA syndrome	柏木保代	小児科学講座
日本小児腎臓病学会雑誌21巻1Suppl. Page191(2008.05)	溶連菌感染の関与が考えられたTubulointerstitial nephritis with uveitis(TINU)症候群の一例	柏木保代	小児科学講座
日本小児救急医学会雑誌8巻1号 Page31-34(2009.02)	当院で経験した潮水12例の臨床的検討	森地振一郎	小児科学講座
Acta Oto-Laryngologica	Endoscopic tumor ablation for laryngotracheal intraluminal invasion secondary to advanced thyroid cancer.	Tsutsui H	外科学第一講座
International Journal of Oncology	Tailor-made approach to photodynamic therapy in the treatment of cancer Based on Bcl-2 Photodamage	Usuda J	外科学第一講座
Lung Cancer	Mucoepidermoid carcinoma of the lung: high-resolution CT and histopathologic findings in five cases.	Ishizumi T	外科学第一講座
Oncology Reports	Quantitative p16 and ESR1 methylation in the peripheral blood of patients with non-small cell lung cancer.	Suga Y	外科学第一講座

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Respirology	Airway stenting for the treatment of laryngotracheal stenosis secondary to thyroid cancer.	Tsutsui H	外科学第一講座
日本レーザー医学会誌	薬剤排出トランスポーター蛋白(Breast Cancer Resistance Protein,BCRP)の発現と光線力学的治療(PDT)の抗腫瘍効果との関係	角田 佳彦	外科学第一講座
日本レーザー医学会誌	甲状腺微小癌に対する組織内レーザー焼灼法の研究	久保田光博	外科学第一講座
日本レーザー医学会誌	悪性胸膜中皮腫に対する発光ダイオードによる光線力学的療法(photodynamic therapy)の基礎的検討	今井健太郎	外科学第一講座
東京医科大学雑誌	非小細胞肺癌における術後化学療法の効果予測を目指したバイオマーカー(Reticulocalbin)の評価	片場 寛明	外科学第一講座
東京医科大学雑誌	非小細胞肺癌患者における免疫染色法を用いた Breast Cancer-resistance Proteinの発現とGefitinibの治療効果	及川 武史	外科学第一講座
東京医科大学雑誌	光線力学的治療法によるCHOP/GADD153発現誘導とアポトーシス	井上 達哉	外科学第一講座
東京医科大学雑誌	肺癌におけるEpidermal Growth Factor Receptor(EGFR)とEstrogen Receptor β (ER β)に関する検討	稲田 秀洋	外科学第一講座
東京医科大学雑誌	RANTES制御による慢性拒絶反応抑制に関する検討	平良 真博	外科学第一講座
東京医科大学雑誌	ホスホマイシン投与による肺虚血再灌流障害の抑制効果に関する検討	林 博樹	外科学第一講座
東京医科大学雑誌	免疫染色法によるEGFR遺伝子変異(L858R)の検出についての検討	坂田 義詞	外科学第一講座
東京医科大学雑誌	非小細胞肺癌におけるeIF-4E, VEGF, survivinの発現と臨床意義	名和 公敏	外科学第一講座
東京医科大学雑誌	Platelet rich plasma(PRP)を用いた肺漏閉鎖に関する基礎的検討	木村 雅一	外科学第一講座
東京医科大学雑誌	Comparative genomic hybridization法とgenomic DNA microarray法による肺癌細胞株遺伝子異常の比較解析	緒方 昭彦	乳腺科
東京医科大学雑誌	同種移植後拒否反応における免疫制御細胞の関与に関する検討	緒方 潔	外科学第一講座
Annals of Vascular Diseases 1(2):102-110,2008	Effects of the 5-HT _{2A} Antagonist Sarpogrelate on Walking Ability in Patients with Intermittent Claudication as Measured Using the Walking Impairment Questionnaire	Matsuo H.	外科学第二講座
Annals of Vascular Diseases 1(1):52-55, 2008	Aneurysms of Gastroepiploic Artery and Vein with an Arteriovenous Fistula after Partial Gastrectomy in a Patient Presenting with Abdominal Aortic Aneurysm- Report of a Case	Shigematsu K.	外科学第二講座
Progress in Medicine 28(6):1607-1636	閉塞性動脈硬化症に対する治療戦略・血管内治療の現状と将来を探る	重松 宏	外科学第二講座
日本医師会雑誌137(特別号) 337-338, 2008	新世代の大動脈ステント	重松 宏	外科学第二講座

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Annals of Vascular Diseases 1(1):40-44,2008	Hybrid treatment of multiple aortic aneurysms by combined conventional surgery and endovascular aortic repair	Obitsu Y	外科学第二講座
東京医科大学雑誌 66(4):574-583,2008	難治性下腿潰瘍を有する血管炎	小櫃 由樹生	外科学第二講座
脈管学48(1):67-73,2008	わが国におけるASOに対する抗血小板療法のエビデンスと現状	西部 俊哉	外科学第二講座
心臓リハビリテーション 13(2):326-330,2008	血管運動療法普及の問題点	土田 博光	外科学第二講座
日本内科学会雑誌 97(2):351-357,2008	末梢動脈疾患(PAD):診断と治療の進歩, III治療と管理の実際, 4. 日常生活管理と指導	土田 博光	外科学第二講座
Journal of Vascular Surgery 48(supplement)24s-29s,2008	Thoracic endovascular aneurysm repair in Japan: Experience with fenestrated stent grafts in the treatment of distal arch aneurysms	Kawaguchi S.	外科学第二講座
脈管学48(3):257-262,2008	胸部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術	川口 聡	外科学第二講座
Medicina45:2017-2019,2008	静脈疾患からくる浮腫をどう診るか	駒井 宏好	外科学第二講座
脈管学48(3):249-256,2008	ステントグラフト内挿術における画像診断・適応評価	横井 良彦	外科学第二講座
静脈学19(2):43-49,2008	血栓性素因者にみられる深部静脈血栓症・非素因者との比較と抗凝固療法の必要性	渡部 芳子	外科学第二講座
心臓40(5):445-449,2008	慢性透析患者に対する弁膜症手術成績	飯田 泰功	外科学第二講座
日本血管外科学会雑誌 17(5):601-604,2008	慢性腹膜透析患者の腹部大動脈瘤に対する分岐型人工血管置換術	飯田 泰功	外科学第二講座
胸部外科 61(1):73-77,2008	上行動脈の高度動脈硬化性病変に対し腋窩動脈送血を行ったon-pump beating CABG	飯田 泰功	外科学第二講座
日本心臓血管外科学会雑誌 37(3):177-180,2008	左総腸骨静脈閉塞症に対しリング付ePTFEグラフトにて大腿-腸骨静脈交叉バイパス術を施行した1例	飯田 泰功	外科学第二講座
日本心臓血管外科学会雑誌 37(5):302-305,2008	右鎖骨下動脈起始異常およびKommerell憩室, 狭心症を伴った胸腹部大動脈瘤に対し, 分割手術を行った1例	飯田 泰功	外科学第二講座
日本心臓血管外科学会雑誌 37(6):311-316,2008	ゼニスAAAステントグラフト適応限界フィルムリーディングの検討	東 隆	外科学第二講座
日本心臓血管外科学会雑誌 37(5):302-305,2008	右鎖骨下動脈起始異常およびKommerell憩室, 狭心症を伴った胸腹部大動脈瘤に対し, 分割手術を行った1例	飯田 泰功	外科学第二講座
日本心臓血管外科学会雑誌 37(6):311-316,2008	ゼニスAAAステントグラフト適応限界フィルムリーディングの検討	東 隆	外科学第二講座
Clinical medicine:oncology 2008:2 :1-5	Oxaliplatin for metastatic colon cancer in a patient with renal failure	Katsumata K	外科学第三講座
Journal of gastroenterology and hepatology 23 (2008)Suppl.2 : S171-S174	Tailored eradication therapy based on fecal helicobacter pylori clarithromycin sensitivities	Kawai T*	外科学第三講座

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Journal of gastroenterology and hepatology 23 (2008)Suppl.2 : S181-S185	Impact of transnasal ultrathin esophagogastroduodenoscopy (UT-EGD)in the evaluation of esophageal peristaltic function	Kawai T*	外科学第三講座
Hepato-Gastroenterology 55 (2008): 786-790	A study of the relationship between Helicobacter pylori microbial susceptibility, 13C-urea breath test values	Kawai T*	外科学第三講座
J Hepatobiliary pancreat surg (2008) 15:189-195	Detection of circulating tumor cells in patients with pancreatic cancer: a preliminary result	Kurihara T* 1.914	外科学第三講座
Kurihara T* 1.914	上部消化管腫瘍に対する全身麻酔下ESDとその術後管理	尾形 高士	外科学第三講座
Hepatology 2008 (47): 143-152	Present status of ABO-incompatible living donor liver transplantation in Japan	Egawa H*	外科学第三講座
日本外科系連合会誌 33(1):40-43	腸管気腫性嚢胞を伴った壊疽型虚血性腸炎の1例	石崎 哲央	外科学第三講座
日本消化器病学会雑誌 105(2):257-264	脾炎症性偽腫瘍の1例	目時 亮*	外科学第三講座
外科70 (4) : 400-404	センチネルノードナビゲーション手術 (SNNS) の進歩と展望 消化器癌 食道癌	青木 達哉	外科学第三講座
日外科系連合会誌33 (2) : 208-212	膵管内乳頭粘液性腺癌術後の残膵癌に残膵全摘術を施行し得た1例	須田 健	外科学第三講座
日本大腸肛門病会誌61 (4) : 194-198	横行結腸癌に併発した肝炎症性偽腫瘍の1例	佐藤 晋	外科学第三講座
J Hepatobiliary Pancreat Surg15(4) : 359-365	The VIO soft-coagulation system can prevent pancreatic fistula following pancreatectomy	Nagakawa Y.	外科学第三講座
日本大腸肛門病会誌61 (2) : 95-100	同時性多発肝転移を認め、極めて予後不良であった上行結腸内分泌細胞癌の2例	安田 祥浩	外科学第三講座
Free radical biology & medicine45(2008): 284-294	Calcium induced generation of reactive oxygen species in brain mitochondria is mediated by permeability transition	Magnus J.Hansson.*	外科学第三講座
日本消化器外科学会誌 41(5): 516-520	十二指腸第4部早期癌の1例	石崎 哲央	外科学第三講座
Helicobacter Research12 (3) : 178-182	FDにおける内視鏡所見, 上腹部症状および Helicobacter pylori感染の関心の検討	河合 隆*	外科学第三講座
Langenbecks arch surg	Evaluation of sequential organ failyre assessment score for patients with strangulation ileus	Sumi T	外科学第三講座
日本臨床外科学会雑誌 69(8):2083-2087	胆管内ガスを伴い急速な画像変化を認めた気腫性胆嚢炎の1例	榎本 正統	外科学第三講座
日本外科系連合学会誌 33(4):574-578	手術摘出肝組織の公共的組織バンクへの提供システムの構築	遠藤 光史	外科学第三講座
Clin cancer res 2008 Sep 1;14 (17) :5348-5356	Expression and gene amplification of actinin-4 in invasive ductal carcinoma of the pancreas	Kikuchi S 6.488	外科学第三講座
日本外科系連合学会誌 33(5):717-723	膵癌、胆道癌におけるhypoxia-inducible factor-1 α 発現と腫瘍血管および遺伝子多型についての検討	粕谷 和彦	外科学第三講座
日本外科系連合会誌 33(5):756-760	胃潰瘍穿通に起因したと思われる胃内芽腫の1例	清水 広久*	外科学第三講座

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Gastroenterological endoscopy50 (11): 2852-2858	胃悪性リンパ腫による胃横行結腸瘻の1例	村田 昌隆*	外科学第三講座
Progress of digestive endoscopy73(2): 46-49	当院におけるESDの治療成績からみた適応拡大の妥当性についての検討	川上 浩平*	外科学第三講座
Intrenational journal of molecular medicine 23 :709-716	Growth inhibitory effects of vitamin K2 on colon cancer cell lines via different types of cell death including autophagy and apoptosis	Kawakita H.	外科学第三講座
Archives of biochemistry and biophysics 483 :90-98	Molecular and functional characterization of choline transporter in human colon carcinoma HT-29 cells	Kouji H.	外科学第三講座
J Hepatobiliary Pancreat Surg 16(3) :376-381	p53 gene mutation and p53 protein overexpression in a patient with simultaneous double cancer of the gallbladder and bile duct associated with pancreaticobiliary maljunction	Kazuhiko K.	外科学第三講座
Lasers Med Sci 23:237-245,2008	Uptake and retention of the photosensitizer mono-L-asparthyl chlorine e6 in experimental malignant glioma	Matsumura H, Akimoto J, Haraoka J, Aizawa K	脳神経外科学講座
PDPDT 5:198-209,2008	Photodynamic therapy of C6-implanted glioma cells in the rat brain employing second-generation photosensitizer Talaporfirin sodium	Namatame H, Akimoto J, Matumura H, Haraoka J, Aizawa K	脳神経外科学講座
Minim Invasive Neurosurg 51:313-318,2008	Neuroendoscopic trans-third ventricle approach for lesions of the ventral brainstem surface	Miki T, Nakajima N, Akimoto J, Wada J, Haraoka J	脳神経外科学講座
Neuropathology 28(2):223,2008	A case of meningoamatois epileptogenic focus	Akimoto J, Haraoka J	脳神経外科学講座
Neurol Med Chir(Tokyo) 48:311-313,2008	Biochemical cure of acromegaly after transsphenoidal surgery despite residual tumor on magnetic resonance imaging -case report-	Nishioka H, Haraoka J	脳神経外科学講座
日本電気学会誌 OQD08:69-72,2008	悪性脳腫瘍手術におけるPDD/PDTの応用	秋元 治朗	脳神経外科学講座
J Tokyo Med Univ	Perioperative fluid management in patients undergoing lobectomy	Yanagita K	麻酔科学講座
東京医大雑誌	脳虚血時における脳内GABA _A 受容体 α 4サブユニットの脳保護的役割	新山 和寿	麻酔科学講座
日本ペインクリニック学会誌	会陰部の慢性難治性疼痛が不對神経ブロックと上下腹神経叢ブロックで軽減した1症例	曾我部 豊	麻酔科学講座
British Journal of Anaesthesia	Effects of carbon dioxide absorbent cooling and temperature gradient reduction on water condensation in the anaesthesia circuit	Hirabayashi G	麻酔科学講座
Neurochemical Research	Isoflurane inhibits protein kinase Cgamma and calcium/calmodulin dependent protein kinase ii-alpha translocation to synaptic membranes in ischemic mice brains.	Matsumoto S	麻酔科学講座

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
G.I.Research	肝細胞障害形成における肝ミトコンドリア膜透過性亢進誘発性ROS産生の基礎的解析 —ラットと人肝ミトコンドリアを用いての検討	内野 博之	麻酔科学講座
関東整形災害外科学会 雑誌39(2): 48-52, 2008	頸胸椎固定術を行った首下がり1例	宮本 泰典, 遠藤 健司, 馬嶋 正和	整形外科科学講座
日本関節病学会誌27 (1):3-11.2008	低出力超音波刺激(LIPUS)および線維芽細胞増殖因子(FGF-2)の骨形成促進作用におけるヒアルロン酸(HA)の影響	小島 理, 正岡 利紀, 小坂 泰一	整形外科科学講座
日本関節病学会誌27 (1):13-23, 2008	超小型3軸加速度センサーを用いた内側型変形性膝関節症に対する各種足関節固定型足底板の効果の比較	吉野 聡一, 宍戸 孝明, 上野 竜一	整形外科科学講座
International Orthopaedics(SICOT) 32 : 167-172, 2008	Changes of bone mineral density after cementless total hip arthroplasty with two different stems	Sano K., Ito K., Yamamoto K.	整形外科科学講座
肩関節32(2): 273-275, 2008	肩鎖関節損傷における脱臼程度と造影MRIによる靭帯損傷の比較検討	高瀬 勝己, 佐藤 由佳, 山本 謙吾	整形外科科学講座
肩関節32(2): 277-280, 2008	肩鎖関節損傷に対する新しい鳥口鎖骨靭帯再建術術式	高瀬 勝己, 山本 謙吾	整形外科科学講座
肩関節32(2), 237-240, 2008	鳥口鎖骨靭帯の解剖学的特徴	高瀬 勝己, 山本 謙吾, 伊藤 正裕*	整形外科科学講座
関東整形災害外科学会 雑誌39(3): 129-135, 2008	縦隔腫瘍と初期診断された胸椎軟骨肉腫の1例	吉田 晃生, 田中 恵, 遠藤 健司, 木 村 大	整形外科科学講座
関東整形災害外科学会 雑誌39(3): 118-122, 2008	大腿骨外顆荷重部骨軟骨骨折を伴った膝蓋骨脱臼の1例	森島 満, 宍戸 孝明, 澤田 博文	整形外科科学講座
関東整形災害外科学会 雑誌39(3); 85-89, 2008	薬物治療を施行している骨粗鬆症患者のQOL改善効果の検討	鈴木 昭仁, 山本 謙吾, 市丸 勝二	整形外科科学講座
Spine 33(16):E539-E542, 2008	Consciously Postural Sway and Cervical Vertigo After Whiplash Injury	Endo K., Suzuki H., Yamamoto K.	整形外科科学講座
日本関節病学会誌27(2), 139-145, 2008	大腿骨骨折に対する逆行性髄内釘の治療成績	馬嶋 正和, 小山 尊士, 諸橋 彰	整形外科科学講座
肩関節32(3): 565-568	上腕骨近位端骨折に対する順行性直線型髄内釘法による治療 短頸タイプにおける注意点	新村光太郎, 高瀬 勝己, 山本 謙吾	整形外科科学講座
関東整形災害外科学会 雑誌39(4): 161-166, 2008	Acromegalic arthropathyに対して人工股関節置換術を施行した1例	名嘉 準一, 宍戸 孝明, 山本 謙吾	整形外科科学講座
関東整形災害外科学会 雑誌39(4): 167-171, 2008	長期経過を経て生じた放射線治療後骨盤部骨の脆弱性骨折の1例	高橋 翼, 服部 宏行, 松岡 宏昭	整形外科科学講座
Jpn J Rehabil Med 45(9): 571-575, 2008	脳性麻痺の訓練治療のあり方 ガイドライン委員会の報告を踏まえて 脳性麻痺訓練のEBMと現状	朝貝 芳美	整形外科科学講座
日小整会誌17(2) 369- 374, 2008	ペルテス病の保存的治療成績に影響を及ぼす因子と成績向上への取り組み	朝貝 芳美, 渡邊 泰央, 山本 謙吾	整形外科科学講座
Orthopaedics 21(10): 31-36, 2008	肩関節に対する実践的保存療法のコツ 上腕骨近位端骨折の保存療法	高瀬 勝己, 山本 謙吾	整形外科科学講座
関東整形災害外科学会 雑誌39(5): 269-274, 2008	胸椎黄色靭帯骨化症に胸椎椎間板ヘルニアを合併した1例	江川誠一郎, 田中 英俊, 遠藤 健司	整形外科科学講座

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
関東整形災害外科学会雑誌39(5): 264-268, 2008	腰椎部骨化症くも膜炎の2例	石田 常仁, 朝日盛也, 西山 誠	整形外科科学講座
日本腰痛学会雑誌14(1): 23-27, 2008	腰部脊柱管狭窄症の病型と脊柱矢状面アライメントの関連	鈴木 秀和, 遠藤健司, 小林 浩人	整形外科科学講座
日本腰痛学会雑誌14(1): 129-133, 2008	体幹前傾を伴った腰椎椎間板ヘルニアの臨床像と腰椎骨盤矢状面アライメント	遠藤 健司, 康 玉鵬, 鈴木 秀和	整形外科科学講座
Hip Joint 34: 768-772, 2008	腸恥滑液包炎を伴い急速な股関節破壊を呈した関節リウマチの1例	立岩 俊之, 高明秀, 山本 謙吾	整形外科科学講座
日本手の外科学会誌24(6): 1053-1056, 2008	月状骨周囲損傷における病態と治療成績	高瀬 勝己, 諸橋彰, 山本 謙吾	整形外科科学講座
日本関節病学会誌27(4): 481-488, 2008	RA頸椎病変に対する上位頸椎後方除圧固定術の治療成績と問題点	田中 英俊, 山本謙吾, 遠藤 健司	整形外科科学講座
日本手の外科学会雑誌25(3), 239-243, 2008	手根骨骨内ガングリオンの病態および治療成績	高瀬 勝己, 山本謙吾	整形外科科学講座
J Orthop Sci. 13: 481-484, 2008	FDG-PET demonstration of asymptomatic skeletal muscle metastasis from colorectal carcinoma	Hattori H., Nishimura H., Mastuoka H.	整形外科科学講座
Bone 44: 53-60, 2009	Arkadia represses the expression of myoblast differentiation markers through degradation of Ski and the Ski-bound Smad complex in C2C12 myoblasts	Yuzawa H, Koinuma D, Maeda S	整形外科科学講座
J. Arthroplasty 24(1):83-89, 2009	Cement spacer loaded with antibiotics for infected implants of the hip joint	Yamamoto K., Miyagawa N., Masaoka T.	整形外科科学講座
Wear 267 : 734-742, 2009	Aggressive 3rd-body wear challenge to highly crosslinked polyethylene: A hip simulator model	Kubo K., Clarke I.C., Sorimachi T.	整形外科科学講座
日本関節病学会誌28(1): 35-42, 2009	Metal-on-Metal型人工股関節の中期成績と問題点	石田 常仁, 間中昌和, 宍戸 孝明	整形外科科学講座
日本関節病学会誌28(1): 109-113, 2009	高齢者大腿骨頸部骨折の入院長期化に関する因子	鈴木 秀和, 山本謙吾	整形外科科学講座
Oncol Rep.	Prognostic significance of tenascin-C expression in clear cell renal cell carcinoma	Ohno Y	泌尿器科学講座
Oncol Rep.	Characterization and gene expression analysis of novel matched primary and metastatic renal cell carcinoma cell lines	Ohno Y	泌尿器科学講座
Current Urology	Musinous tubular and spindle cell carcinoma of the kidney: A case report with the focus on radiological findings	Ohno Y	泌尿器科学講座
Human Cell	Establishment of orthotopic mouse superficial bladder tumor model for studies on intravesical treatments	Horiguchi Y	泌尿器科学講座
Life Sci	Effects of a KiSS-1 peptide, a metastasis suppressor gene, on the invasive ability of renal cell carcinoma cells through a modulation of a matrix metalloproteinase 2 expression	Yoshioka k	泌尿器科学講座
J Robotic Surg	Robotic-assisted laparoscopic radical prostatectomy: initial 15 cases in Japan	Yoshioka k	泌尿器科学講座

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Urol Int	Simple stratification of survival using bone scan and serum c-reactive protein in prostate cancer patients with metastases	Nakashima J	泌尿器科学講座
Int J Urol.	Prediction of Extraprostatic Cancer by Prostate Specific Antigen Velocity, Endorectal MRI, and Biopsy Gleason Score in Clinically Localized Prostate Cancer	Ozu C	泌尿器科学講座
Urology View	根治的前立腺摘除術後のPSA再発に対する内分泌療法:遅延療法か即時療法か?	中島淳	泌尿器科学講座
臨床眼科 62:897-901,2008	乾癬に伴うぶどう膜炎の検討	奥貫陽子, 毛塚剛司, 臼井嘉彦, 竹内大, 坂井潤一, 後藤浩	眼科学講座
Mol Vis 14:1094-104,2008	Proteomic surveillance of retinal autoantigens in endogenous uveitis: implication of esterase D and brain-type creatine kinase as novel autoantigens.	Okunuki Y, Usui Y, Kezuka T, Hattori T, Masuko K, Nakamura H, Yudoh K, Goto H, Usui M, Nishioka K, Kato T, Takeuchi M.	眼科学講座
Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 246:285-290,2008	Circulating neutrophils in Behçet disease is resistant for apoptotic cell death in the remission phase of uveitis.	Fujimori K, Oh-i K, Takeuchi M, Yamakawa N, Hattori T, Kezuka T, Keino H, Suzuki J, Goto H, Sakai J, Usui M.	眼科学講座
臨床眼科 62:865-868,2008	サルコイドーシス旧診断基準と新診断基準の患者分布の比較	大下雅世, 後藤浩, 大井桂子, 坂井潤一	眼科学講座
Acta Otolaryngol 128:515-519,2008	Involvement of the incudostapedial joint anomaly in conductive deafness.	Suzuki M, Kanebayashi H, Kawano A, Hagiwara A, Furuse H, Yamaguchi T, Shimizu M:	耳鼻咽喉科学講座
Auris Nasus Larynx 35:545-551,2008	Therapeutic effects of a new photosensitizer for photodynamic therapy of early head and neck cancer in relation to tissue concentration.	Yoshida T, Tokashiki R, Ito H, Shimizu A, Nakamura K, Hiramatsu H, Tsukahara K, Shimizu S, Takata D, Okamoto I, Suzuki M:	耳鼻咽喉科学講座
Oncology Reports 19:847-852,2008	Clinicopathological significance of the fragile histidine triad transcription protein expression in laryngeal carcinogenesis.	Kitamura K, Hayashi K, Kobayashi R, Ishii H, Matsubayashi J, Matsumoto T, Suzuki M:	耳鼻咽喉科学講座
Acta Otolaryngol 128:1037-1042,2008	Efficacy of total intravenous anesthesia without intubation for laryngeal framework surgery.	Nakamura K, Muto T, Yoshida T, Hiramatsu H, Watanabe Y, Suzuki M:	耳鼻咽喉科学講座

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Acta Otolaryngol 128:1348-1353,2008	Surgical treatment for adductor spasmodic dysphonia—The efficacy of bilateral thyroarytenoid myectomy under microlaryngoscopy—.	Nakamura K, Muta H, Watanabe Y, Mochizuki R, Yoshida T, Suzuki M:	耳鼻咽喉科学講座
Eur Arch Otorhinolaryngol 265:725-730,2008	Usefulness of three-dimensional computed tomography of the larynx for evaluation of unilateral vocal fold paralysis before and after treatment:technique and clinical applications.	Hiramatsu H, Tokashiki R, Suzuki M:	耳鼻咽喉科学講座
Eur Arch Otorhinolaryngol 265:565-569, 2008	Surgery did not improve the subjective neuropsychological symptoms in our patients with incidentally detected mild primary hyperparathyroidism.	Tsukahara K, Sugitani I, Fujimoto Y, Kawabata K:	耳鼻咽喉科学講座
Acta Otolaryngol 128:578-582,2008	Useful combination of intra-arterial chemotherapy and radiation therapy for lateral oropharyngeal wall cancer.	Tsukahara K, Yoshida T, Tokashiki R, Ito H, Hiramatsu H, Suzuki M:	耳鼻咽喉科学講座
Acta Otolaryngol 128:1173-1177,2008	Polymorphic analysis of the heat-shock protein 70 gene (HSPA1A) in Meniere's disease.	Kawaguchi S, Hagiwara A, Suzuki M:	耳鼻咽喉科学講座
癌と化学療法35:1116-1121, 2008	機能温存目的の部分切除と化学療法併用放射線療法はどちらが有用か？	吉田知之:	耳鼻咽喉科学講座
Therapeutic Research 29:958-962, 2008	中部食道酸刺激による上部食道括約部圧の変化と咽喉頭圧迫感の発現に関する検討.	渡嘉敷亮二, 船戸宣利, 鈴木 衛:	耳鼻咽喉科学講座
耳展 51:134-139,20088	上咽頭癌再発例に対する定位放射線治療.	伊藤博之, 吉田知之, 清水 颯, 高田大輔, 鈴木 衛:	耳鼻咽喉科学講座
日気食会報 59:311-317,2008	片側喉頭麻痺に対する局所麻酔下喉頭枠組み手術の有用性.	中村一博, 一色信彦, 讃岐徹治, 金沢英哲:	耳鼻咽喉科学講座
日気食会報 59:381-387,2008	披裂軟骨内転術への甲状軟骨形成術 I 型IV型併用の有用性.	中村一博, 一色信彦, 金沢英哲, 讃岐徹治:	耳鼻咽喉科学講座
耳鼻臨床 101:39-43,2008	性同一性障害における音声外科手術—Female-to-Male症例に対する甲状軟骨形成III型について—	児島 剛, 庄司和彦, 一色信彦, 中村一博:	耳鼻咽喉科学講座
Equilibrium Res 67:294-300,2008	積層造型内耳モデルを用いた半規管の計測.	金林秀則, 鈴木衛, 小川恭生:	耳鼻咽喉科学講座
耳鼻臨床 101:503-507, 2008	感音難聴で発症した髄膜癌腫症例.	近藤貴仁, 萩原晃, 小川恭生, 西山信宏, 長谷川達哉, 山田哲也, 鈴木 衛:	耳鼻咽喉科学講座
耳鼻臨床 101:777-780,2008	腎細胞癌の副鼻腔転移例.	根本祥子, 荒木進, 永井賀子, 本橋 玲, 飯村陽一, 鈴木 衛:	耳鼻咽喉科学講座

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
CHEST 135:1-7,2009	Gender difference in the clinical characteristics among Japanese patients with obstructive sleep apnea syndrome.	Yukawa K, Inoue Y, Yagyuu H, Hasegawa T, Nagai N, Nemoto S, Sano E, Shibusawa M, Nagano N, Suzuki M:	耳鼻咽喉科学講座
Eur Arch Otorhinolaryngol 266(1):97-104,2009	Characterization of arytenoid vertical displacement in unilateral vocal fold paralysis by three-dimensional computed tomography.	Hiramatsu H, Tokashiki R, Nakamura M, Motohashi R, Yoshida T, Suzuki M:	耳鼻咽喉科学講座
耳鼻免疫アレルギー 27:25-30,2009	スギ花粉症の症状の重症化およびQOLに影響を及ぼす因子に関する検討.	北村剛一, 長谷川達哉, 荒木進, 山口太郎, 鈴木衛:	耳鼻咽喉科学講座
日気食会報 60:23-27,2009	甲状腺乳頭癌浸潤症例に対する気管表層切除術.	塚原清彰, 杉谷巖, 川端一嘉:	耳鼻咽喉科学講座
日気食会報 60:1-7,2009	片側声帯麻痺に対する甲状軟骨板經由披裂軟骨内転術—fenestration approach—	本橋玲, 渡嘉敷亮二, 平松宏之, 中村珠理, 船戸宣利, 鈴木衛:	耳鼻咽喉科学講座
耳鼻臨床 102:185-190,2009	人工内耳術後に再燃した中耳炎による蝸牛破壊例.	永井賀子, 萩原晃, 河野淳, 西山信宏, 古瀬寛子, 鈴木衛:	耳鼻咽喉科学講座
Lung Cancer	Glomus tumor of the left main bronchus	Akata S.	放射線医学講座
Clin Imaging	High-resolution computed tomographic findings of small peripherally located squamous cell carcinoma	Akata S.	放射線医学講座
臨床放射線	塩化ストロンチウム-89による疼痛緩和治療	吉村 真奈	放射線医学講座
Leukemia Research	Evaluation of cardiac iron overload in transfusion-dependent adult marrow failure patients by magnetic resonance imaging	Park J.	放射線医学講座
日本婦人科腫瘍学会雑誌	難治性卵巣癌に対する手術療法の適応と限界—転移臓器合併切除術の意義に関する検討—	寺内 文敏	産科婦人科学講座
Cancer science	Early growth response-1 mediates downregulation of telomerase in cervical cancer.	芥川 修	産科婦人科学講座
臨床血液 46:1623-1627, 2008	コンファクトFを用いた病型不明のvon Willebrand病に合併した卵巣出血の止血管理	鈴木隆史, 香川和彦, 大石毅, 川田和秀, 藤東淳也, 井坂恵一, 福武勝幸	臨床検査医学科、産科婦人科
日本血栓止血学会誌 19:244-256, 2008	国内のインヒター保有血友病患者における遺伝子組み換え活性型第VII因子製剤(注射用ノボセプン)の高用量単回投与に関する臨床研究	白幡聡, 嶋緑倫, 岡敏明, 天野景裕, 花房秀次, 瀧正志, 三間屋純一, 松下正, 高松純樹, 日笠聡, 小阪嘉之, 須賀健一, 酒井道生, 梶原真清恵, 高田昇, 吉岡章	臨床検査医学講座、他

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本血栓止血学会誌 19:510-519, 2008	インヒビターのない血友病患者の急性出血、処置、手術における凝固因子補充療法のガイドライン	白幡聡、嶋緑倫、岡敏明、天野景裕、花房秀次、瀧正志、三間屋純一、松下正、高松純樹、日笠聡、酒井道生、高田昇、吉岡章、竹谷英之、福武勝幸、藤井輝久、田中一郎	臨床検査医学講座、他
日本血栓止血学会誌 19:520-539, 2008	インヒビター保有先天性血友病患者に対する止血治療ガイドライン	白幡聡、嶋緑倫、岡敏明、天野景裕、花房秀次、瀧正志、三間屋純一、松下正、高松純樹、日笠聡、酒井道生、高田昇、吉岡章、竹谷英之、福武勝幸、藤井輝久、田中一郎	臨床検査医学講座、他
International Review of Thrombosis 3:334-338, 2008	抗血栓療法でのモニタリングにおけるPT-INRの現状	福武勝幸	臨床検査医学講座
日本血栓止血学会誌 19:788-795, 2008	軽症血友病Aから検出される第VIII因子R531H変異の第VIII因子活性とその特徴	稲葉浩、矢富裕、篠澤圭子、鈴木隆史、天野景裕、福武勝幸	臨床検査医学科講座、他
臨床病理 56:570-576, 2008	茨城県南3施設におけるカルバペネム系抗菌薬のAUD比較と緑膿菌の薬剤感受性の検討	大石毅、人見重美、鴨下昌晴、福江英尚、川畑大輔、福武勝幸	臨床検査医学科講座、他
日本血栓止血学会誌 20:3-5, 2009	血液製剤輸血の適応と使用法;血液凝固因子製剤(vWF、fibrinogen、factor XIII)	鈴木隆史	臨床検査医学科講座、他
日本血栓止血学会誌 20:56-65, 2009	化膿性関節炎の術後重篤な出血を引き起こし、インヒビターが一過性に出現した異常第VIII因子(Thr1774Asn)有する軽症血友病A(CRM+)の一例	三浦明、伊藤俊広、嶋緑倫、稲葉浩、福武勝幸、新井盛夫、鈴木宗三、酒井秀章	臨床検査医学科講座、他
癌と化学療法, 35巻7号, 1157-1161, 2008.07	口腔癌の化学・放射線療法による口腔粘膜炎に対するRebamipide含嗽液の使用経験	安田 卓史	口腔外科学講座
神奈川歯学, 43巻, 31-35 2008	音響測定分析ソフトDSSF3を応用した口蓋欠損修復後の発音機能の解析	北条 了	口腔外科学講座
神奈川歯学, 43巻, 60-68 2008	Obturatorによる口蓋欠損の補綴治療手法	北条 了	口腔外科学講座
日本口腔科学会雑誌, 57巻, 389-396	ビスホスホネート投与患者に生じた顎骨壊死の早期発見への取り組み	松尾 朗	口腔外科学講座
頭頸部癌, 34巻, 498-502, 2008 12	口腔扁平上皮癌におけるフッ化ピリミジン系抗癌剤活性酵素の発現と薬剤奏功性との関係	Watanabe M	口腔外科学講座
東京医科大学雑誌, 66巻, 461-472	ビスホスホネート投与患者に生じた顎骨壊死症例	松尾 朗	口腔外科学講座
In vivo, 22, 571-576, 2008	Effect of Sairei-to and its Ingredients on Prostaglandin E2 Production by Mouse Macrophage-like Cells	Kaneko T	口腔外科学講座

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本障害者歯科学会雑誌 29巻, 4-31, 3号 2008	都市におけるHIV/ AIDS感染者・患者に対する歯科開業医の医療連携・第2報	蛭名 勝之	口腔外科学講座
Asian J Oral Maxillofac Surg20:34-6,2008	Thyroglossal duct cyst on the inferior surface of the tongue in an elderly woman	Takeuchi S	口腔外科学講座
Ann Plast Surg, 61(1):94-8,2008.	Comparison of Doppler sonography and multidetector-row computed tomography in the imaging findings of the deep inferior epigastric perforator artery.	Imai R, Matsumura H, Tanaka K, Uchida R, Watanabe K	形成外科学講座
外科, 71(2):208-11,2009.	腕神経叢・腋窩神経血管束周囲に生じた巨大リンパ管腫の1例	井田夕紀子, 松村一, 山崎哲資, 渡辺克益	形成外科学講座
21(10):976-81,2008	今日からできる救急・ICUでの創傷ケア 特集4創傷ケアの実際 熱傷の場合	吉澤直樹, 松村一	形成外科学講座
PEPARS, (25):55-63,2009.	【小児熱傷・特殊損傷必須ガイド】小児の陰部・下肢熱傷	吉澤直樹, 菅又章	形成外科学講座
日本形成外科学会誌, 28:588-92,2008.	皮膚・皮下組織に生じた筋上皮腫の1例および本邦報告例の集計	山口健一, 菅又章, 吉澤直樹, 松岡保子	形成外科学講座
日本頭蓋顎顔面外科学会誌, 24(3):202-7,2008	涙小管断裂の手術時期に関する検討	岡田宇広, 松村一, 田中浩二, 渡辺克益	形成外科学講座
関節外科, 28(3):400-05,2009	【整形外科医に必要なマイクロサージャリー】マイクロサージャリーにおける練習モデルの意義	岡田宇広, 松村一, 松林純, 五百部浩昭, 渡辺克益	形成外科学講座
熱傷, 3(34):152-7,2008	et al: 出生直後に受傷した広範囲熱傷の治療経験	松岡保子, 松村一, 岡田宇広, 今井龍太郎, 内田龍志, 田中浩二	形成外科学講座
PEPARS, (26):70-76,2009	【足・下腿難治性潰瘍】糖尿病性足病変・虚血肢に対する大切断の適応と手術の実際	松村一	形成外科学講座
PEPARS, (25):49-54,2009	【小児熱傷・特殊損傷必須ガイド】小児の手の熱傷の治療	松村一	形成外科学講座
日本形成外科学会会誌, 28(5):336-40,2008	足趾切断にいたったcryofibrinogenemiaの1例	権東容秀, 松村一, 今井龍太郎, 内田龍志, 渡辺克益	形成外科学講座
形成外科, 51(9):1021-9,2008	両側唇裂の初回手術 DeHaan法の利点、欠点	渡辺克益, 松村一	形成外科学講座
形成外科, 51(増刊):S77-S83,2008	【外科系医師のための『創傷外科』update】創傷外科各論 急性創傷 熱傷 熱傷創治療のアルゴリズム	渡辺克益	形成外科学講座
東京医科大学雑誌, 66(3):456-60,2008	耳下腺腫瘍切除後の顔面神経麻痺の再建症例	渡辺克益, 権東容秀, 伊藤博之, 本橋玲, 高岡麻里絵, 川田百合	形成外科学講座
PEPARS, (21):50-55,2008	【皮膚腫瘍 外来治療のコツ】線維腫	菅又章	形成外科学講座
形成外科, 51(9):1088-91,2008	肥厚性瘢痕に対するメッシュテープ圧迫法とテープ圧の計測	菅又章, 吉澤直樹, 増田路子	形成外科学講座
日本頭蓋顎顔面外科学会誌, 24(3):222-27,2008	線状型眼窩床骨折(White-eyed blowout fracture)の術後に遷延性複視を呈した1症例	菅又章, 吉澤直樹, 松村一, 片山広介	形成外科学講座

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本職業・災害医学会会誌, 56(3):128-30,2008	アルミニウム発熱剤による熱傷の1例	菅又章, 松村一	形成外科学講座
J Trauma. 64(6): E86-E88	Visualization of efficacy of recombinant factor FVIIa in a pelvic fracture patient	Noda M, Morozumi J, Mishima S, Sasaki H, Yukioka T, Ohta S	救急医学
J Trauma. 66(1): 110-114	Enteral supplementation enriched with glutamine, fiber, and oligosaccharide prevents gut translocation in a bacterial overgrowth model	Azuma H, Mishima S, Oda J, Homma H, Sasaki H, Hisamura M, Ohta S, Yukioka T	救急医学
J Burn Care Res. 30(2):335-340	Protective effects of free radical scavenger edaravone against xanthine oxidase-mediated permeability increases in human intestinal epithelial cell monolayer	Mukojima K, Mishima S, Oda J, Homma H, Sasaki H, Ohta S, Yukioka T	救急医学
Emerg Med J. 26(3):223-224	Follow-up of a self-resolving renal pseudoaneurysm using contrast-enhanced power Doppler ultrasonography	Sasaki H, Yukioka T, Ohta S, Noda M, Homma H, Mishima S	救急医学
医学教育	わが国における研修医のストレス反応とストレス緩和要因の探索およびストレス理論モデルの作成	木村 琢磨、前野 哲博、大滝 純司ほか	総合診療科
Therapeutic Apheresis and Dialysis 12(3): 243-249, 2008	Effects of icodextrin on insulin resistance and adipocytokine profiles in patients on peritoneal dialysis	Takeguchi F.	腎臓内科
American journal of nephrology 28(6): 982-989, 2008	Value of morning home blood pressure as a predictor of decline in renal function in patients with chronic kidney disease	Okada T.	腎臓内科
日本透析医学会雑誌 41(3): 187-193, 2008	血液透析患者に対する簡便な内因性インスリン分泌能検査法の検討	権藤 麻子	腎臓内科
日本腎臓学会雑誌 50(5): 588-596, 2008	慢性腎臓病患者の血圧日間変動-家庭血圧測定による検討-	岡田 知也	腎臓内科
The Annals of thoracic surgery	Commissural autologous pericardial patch repair: a novel technique for active mitral valve endocarditis involving the mitral annulus.	牛島 輝明	心臓外科
The heart surgery forum	How I do it: high-quality intraoperative fluorescence imaging in off-pump coronary artery bypass grafting.	西田 聡	心臓外科
Interactive cardiovascular and thoracic surgery	Awake subxyphoid minimally invasive direct coronary artery bypass grafting yielded minimum invasive cardiac surgery for high risk patients.	渡邊 剛	心臓外科
Histopathology	Breast schistosomiasis japonica--a report of four Japanese cases	Nakamura N	病理診断学講座
Neuropathology	Methotrexate-related leukoencephalopathy without radiation therapy: Distribution of brain lesions and pathological heterogeneity on two autopsy cases	Matsubayashi J	病理診断学講座
Endocr Pathol	Peculiar intracytoplasmic basophilic bodies in papillary thyroid carcinoma	Nakamura N	病理診断学講座
Cancer Res	Regulatory T cell-resistant CD8+ T cells induced by glucocorticoid-induced tumor necrosis factor receptor signaling	Sato E	病理診断学講座

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Cancer	Application of cryobiopsy to morphological and immunohistochemical analyses of xenografted human lung cancer tissues and functional blood vessels	Nakamura N	病理診断学講座
Int J Cancer	Analysis of peripheral and local anti-tumor immune response in esophageal cancer patients after NY-ESO-1 protein vaccination	Sato E	病理診断学講座
Gut	A puzzling cause of melaena	Matsubayashi J	病理診断学講座
Pathol Int	Sebaceous carcinoma of the eyelids: thirty cases from Japan	Nagai T	病理診断学講座
Oncol Rep	Clinicopathological significance of the fragile histidine triad transcription protein expression in laryngeal carcinogenesis	Matsubayashi J	病理診断学講座
Am J Surg Pathol	Sebaceous epithelial-myoeplithelial carcinoma of the salivary gland: Clinicopathologic and immunohistochemical analysis of 6 cases of a new histologic variant	Nagao T	病理診断学講座
Peptides	Pancreatic polypeptide is secreted from and controls differentiation through its specific receptors in osteoblastic MC3T3-E1 cells	Nagao T	病理診断学講座
J Dermatol	Ten cases of sebaceous carcinoma arising in nevus sebaceous	Matsubayashi J	病理診断学講座
Cancer Immunol Immunother	Induction of immune response against NY-ESO-1 by CHP-NY-ESO-1 vaccination and immune regulation in a melanoma patient	Sato E	病理診断学講座

小計 9件
合計308件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長(行岡哲男)
管理担当者氏名	総務課長(吉岡博)、薬剤部長(明石貴雄)、人事課長(中野隆介)、 各診療科長、中央病歴室長(山本謙吾) 医事課長(小美野邦夫)、安全管理室長(相馬孝博)、 感染制御部長(松本哲哉)、臨床工学部長(内野博之)、 臨床工学部主査(服部敏温)放射線部技師長(橋本茂男)、

	保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、 手術記録、看護記録、検査所見記録、 エックス線写真、紹介状、退院した患 者に係る入院期間中の診療経過の要約 及び入院診療計画書	総務課 薬剤部 中央病歴室	カルテ、X線写真等診療録は、入院 外来を含めターミナルディジット ファイリング方式を取り、永久保存 を原則として管理している。
病院の管理 及び運営に 関する諸記 録	従業者数を明らかにする帳 簿	人事課
	高度の医療の提供の実績	各診療科
	高度の医療技術の開発及び 評価の実績	各診療科
	高度の医療の研修の実績	各診療科
	閲覧実績	総務課
	紹介患者に対する医療提供 の実績	中央病歴室
確規 保則 の第 9 条の 2 3 及び 第 1 条の 1 1 各号 に掲 げる 体制	入院患者数、外来患者及び 調剤の数を明らかにする帳 簿	医事課 薬剤部
	専任の医療に係る安全 管理を行う者の配置 状況	安全管理室
	専任の院内感染対策 を行う者の配置状況	感染制御部
	医療に係る安全管理 を行う部門の設置状況	安全管理室
	当該病院内に患者か らの安全管理に係る相 談に適切に応じる体制 の確保状況	安全管理室
	医療に係る安全管理 のための指針の整備状 況	安全管理室
	医療に係る安全管理 のための委員会の開催 状況	安全管理室
	医療に係る安全管理 のための職員研修の実 施状況	安全管理室
医療機関内における 事故報告等の医療に係 る安全の確保を目的と した改善のための方策 の状況	安全管理室	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第1条の11各号に掲げる体制確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部 総務課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	臨床工学部 放射線部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部 放射線部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部 放射線部
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部 放射線部		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長(行岡哲男)
閲覧担当者氏名	病院管理部長(行岡哲男)、薬剤部長(明石貴雄)、 中央病歴室長(山本謙吾)、総務課長(吉岡博)、人事課長(中野隆介) 各診療科長、安全管理室長(相馬孝博)、感染制御部長(松本哲哉)、 臨床工学部長(内野博之)、臨床工学部主査(服部敏温)、 放射線部技師長(橋本茂男)
閲覧の求めに応じる場所	本館6階会議室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	5 件
閲覧者別	医師	延 0 件
	歯科医師	延 0 件
	国	延 4 件
	地方公共団体	延 1 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	54.6%	算定期間	平成20年4月1日～平成21年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数		24,036人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		13,500人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		5,418人
	D: 初診の患者の数		65,075人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 9 条の 2 3 及び第 1 条の 1 1 各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (4 名) ・ 無
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (5 名) ・ 無
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 無
<p>・ 所属職員： 専任 (4) 名 兼任 (4) 名</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>(1) 安全管理委員会開催のための資料準備および議事録作成と管理</p> <p>(2) 医療安全推進に関わる各委員会の開催と資料作成、議事録などの管理</p> <p>1) 医療安全推進委員会の開催</p> <p>2) クオリティマネジメント小委員会の開催</p> <p>3) CVライン管理部会の開催</p> <p>4) AED委員会開催他など</p> <p>(3) 各部門の医療安全管理者 (リスクマネジャ) の研修に関する運営と評価</p> <p>(4) 各部門における医療安全推進の状況把握と評価</p> <p>(5) 安全に関する他委員会との連携強化</p> <p>1) 感染症対策委員会との連携と情報共有</p> <p>2) 医薬品安全管理責任者との連携と情報共有</p> <p>3) 医療機器安全管理責任者との連携と情報共有</p> <p>4) 個人情報保護委員会との連携と情報共有他</p> <p>(6) 医療事故など発生時の対応と指導、職員への周知</p> <p>1) 医療事故発生時の原因究明に関する調査および対策に関する活動</p> <p>2) 分析対策委員会および事故調査委員会開催に関する資料準備、議事録作成と管理等</p> <p>3) 管轄官庁届出に関する作業および記録類の管理</p> <p>4) 職員への指導および援助、再発防止に関する対策構築</p> <p>5) 患者、家族への対応</p> <p>(7) 医療安全に係る取り組みの評価を行うためのカンファレンスの実施</p> <p>(8) 医療安全に係る職員への教育研修会の企画と運営と評価</p> <p>(9) 患者、家族への相談に関する医療安全管理者の活動実施記録などの管理</p> <p>(10) その他医療安全対策の推進に関すること</p>	

④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	④・無
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	⑤・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>ア. 医療安全管理に関する基本的な考え方</p> <p>①人間は誤りをおかすという前提に基づき組織的な対策をたてる</p> <p>②事例に学ぶ姿勢を堅持する</p> <p>③職員間のコミュニケーションの障壁を排除する</p> <p>④医療を取り巻く環境の変化を常に捉え、高い技量レベルを確保する</p> <p>⑤インフォームド・コンセントの意味を理解しその充実を図る</p> <p>イ. 医療に係る安全管理のための委員会その他医療機関内の組織に関する基本方針</p> <p>①安全管理指針で規定する医療に係る安全管理のための委員会設置</p> <p>②安全管理室、患者様相談窓口に関する事項</p> <p>③安全管理室長・統括安全管理者・医療安全管理者設置および役割に関する事項</p> <p>ウ. 医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本方針</p> <p>エ. 院内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善策に関する基本事項</p> <p>オ. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針</p> <p>①報告、②患者・家族（遺族も含む）への対応、③記録、④関係機関への連絡、⑤事故調査、⑥公表</p> <p>カ. 医療従事者と患者の情報の共有に関する基本方針</p> <p>キ. 患者相談への対応に関する基本方針</p> <p>ク. その他医療安全の推進のために必要な基本方針</p>	
⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>(1) 医療事故発生防止のための総合的な対策と施設及び設備の改善計画の立案</p> <p>(2) 医療事故等発生状況の把握及び調査検討・病院報告制度の整備</p> <p>(3) 発生した重大な医療事故への対応と、改善策の職員への周知徹底</p>	

⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況

年 3 回

・研修の主な内容：

医療に係る安全管理のための職員研修は、安全管理室が卒後臨床研修センターと共同で研修計画を策定し、年に3回開催（うち1回は、当院における医療事故被害者遺族からの申し入れによって開催することとなった「医療事故メモリアルデー」である）し、病院全体に共通する全職員を対象とした内容で、院内の講堂にて講演会を開催している。

参加者の把握方法は、入室時の職員証を用いたカードリーダーの打刻と退室時の聴講確認票の提出があり、一定時間以上聴講した者のみを「参加」とみなすことで、参加した聴講者に確実に受講させる体制を敷いている。

なお、講堂で1度に聴講できる人数には限りがある（320人程度）ため、座席数や業務の関係で当日聴講できなかった職員に対するフォロー体制として、①ビデオの上映会（1講演につき、時間と曜日を変えながら15回程度実施）と、②収録DVDの貸出しを行っており、時間的な制約を取り除くことで、全ての職員がいずれかの形で研修を受けることが可能となる環境を確保している。

⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況

・医療機関内における事故報告等の整備 （有・無）

・その他の改善のための方策の主な内容：

（1）インシデント・アクシデントレポート報告方法の変更 → 一部イントラネットでの報告

（2）医療事故報告範囲基準の変更

（3）日本医療機能評価機構への報告

（4）医療事故防止および医療の質確保に関する活動

・全死亡例患者の報告制度とその検証委員会（クオリティマネジメント小委員会）の設置

（5）医療安全推進委員会（多職種混成チーム）による定期的院内巡視と評価

（6）情報の一元化（職員が知っておくべき共有ファイルの指定と管理）

（7）多職種による合同カンファレンスの推進

（8）インフォームド・コンセント時の複数立ち会いの推奨（看護師の立ち会いの推奨）

（9）医療安全情報の配信（急告等）

（10）「安全管理ポケットマニュアル」の作成と配布

（11）抗がん剤、高カロリー輸液などの中央調剤システムの構築

（12）院内「内部通報制度」の構築等

（13）病院倫理委員会の設置によるコンプライアンス（法令遵守）に関わる活動

1）終末期医療のあり方に関する検討委員会

2）非輸血患者の対応に関する検討委員会など

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	①・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>I.院内感染対策の基本的な考え方を示し、防止に留意し、発生時には速やかな制圧を全職員で図る。</p> <p>II.病院長直属の中心的な組織、感染制御部を設ける。</p> <p>III.対策の病院全体への周知・実施を行っていくため、感染症対策委員会と感染リンクドクター・リンクナースを配備する。</p> <p>IV.病院職員に対しては基本的な考え方や具体的な方策に関する研修会を開催する。</p> <p>V.感染症に関する注意情報を随時発するとともに、院内における耐性菌の検出状況を委員会・診療合同会議にて報告する。</p> <p>VI.感染症発生時には職員はすみやかに感染制御部へ報告し、部は原因究明・改善策を委員会にあげる。委員会から全職員に改善策を周知徹底させる。</p> <p>VII.指針は患者その家族が閲覧できる。患者・家族にも感染防止の意義や手技を説明し、協力を求める。</p> <p>VIII.職員はマニュアルを遵守するとともに、自らの健康管理に留意する。</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>I.感染症発生報告書による院内における感染症の発生状況の把握と分析</p> <p>II.微生物検査室からの耐性菌分離レポートの集計結果による発生動向の把握と分析</p> <p>III. 感染制御部立案の具体的対策案について、各種職種代表者による審議</p> <p>IV. 対策案・注意喚起情報の職員への周知（診療合同会議・科長会議・師長会議・総医局会・中央診療部門の各部署での会議や院長通達、委員会からの情報発信など）</p> <p>V. マニュアル・ガイドラインなど院内全般に渡る規約の最終決議</p>	

③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年39回
----------------------------	------

- ・研修の主な内容：
- (1) 新採用者オリエンテーション：院内感染対策組織・マニュアル、血液体液曝露事故、標準予防策
感染経路別予防策、医療廃棄物、洗浄・消毒・滅菌の基本、手指衛生
- (2) 医療安全講演：スタンダードプレコーション, 医療安全について知っておくべきポイント
- (3) 感染リンクナース研修会：年間目標、活動計画、血管内留置カテーテル感染サーベイランス、
グループ活動報告、インフルエンザ・感染性胃腸炎感染防止、防護具の着脱、感染の成立と予防
血液体液曝露事故防止
- (4) 研修医のためのレクチャー：手術部位感染防止ガイドライン、抗菌薬カルバペネム、マクロ
ライド、キノロン正しい使い方、性感染症
- (5) 院内感染対策研修会：医療機関における麻疹対応について、感染管理（基礎から応用まで）、
冬場に多い感染症予防対策、感染管理（基礎から応用）
- (6) 他：N95マスク装着法、フィットテスト、手洗い演習、吸引法、感染症勉強会（発熱、下痢、
腹痛術後発熱）、尿道留置カテーテル関連尿路感染サーベイランス、結核と院内感染対策、
院内肺炎ガイドライン、呼吸器感染症の画像診断

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・病院における発生状況の報告等の整備（有・無）感染症リストによる電話・報告書提出
- ・その他の改善のための方策の主な内容：
- (1) 耐性菌発生を減らすための広域抗菌薬一定期間使用者リストアップ・血液培養陽性者/耐性菌
検出者リストアップに対する現場のラウンドによる指導
- (2) 院内感染対策ラウンドによる基本手技、医療行為、病院環境のチェックと指導
- (3) リンクナースの年間活動計画に基づくグループ活動の実施
- (4) リンクドクター・リンクナースによる自己チェック票を用いた自己評価と改善活動報告
- (5) 感染対策研修会や注意情報提供の周知度を計る全職員試験
- (6) 部署、診療科別の耐性菌検出者・感染者のサーベイランス情報による注意情報発信
- (7) 地域医療機関による感染症研究会開催による医療関連感染対策のための勉強会

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	○・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・研修の主な内容：</p> <p>(1) 新規採用者研修（麻薬の管理、劇・毒薬の管理、向精神薬の管理、覚せい剤原料の管理、血漿分画製剤の管理）</p> <p>(2) 医薬品に関する研修（全職員対象：レミナロン注の末梢血管からの投与濃度について）</p> <p>(3) 抗がん剤を安全に取り扱うために（医師、看護師、薬剤師対象）</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・手順書の作成 （○・無）</p> <p>・業務の主な内容：</p> <p>手順書及びチェックシートを作成した。チェックシートによる業務の確認は病院全体及び薬剤部については年2回、病棟については月1回行い、期限切迫医薬品の回収も併せて行っている。採用医薬品については医療安全の観点からも検討している。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・医薬品に係る情報の収集の整備 （○・無）</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(1) 医薬情報室には専任薬剤師を3名配置している。</p> <p>(2) 医薬品の安全使用に関する情報は厚生労働省ホームページ、インターネット、新聞、雑誌、製薬企業等から入手し必要に応じて加工し、イントラネット（薬剤部ニュース）、薬事ニュース、各種会議で解説・周知している。</p> <p>(3) 外観変更医薬品の画像を薬事ニュースに掲載、隔壁未開通事例の多い輸液の採用中止、プレフィルドシリンジの積極的採用を行っている。</p> <p>(4) 抗がん剤のオーダーは薬剤部で全数チェックしている（レジメン、投与間隔等）</p> <p>(5) 入院患者の抗がん剤の点滴調製を薬剤部で実施している。</p> <p>(6) 手術室、ICU・CCUにも薬剤師を配置し医薬品の適正な使用、在庫管理をしている。</p> <p>(7) 処方せん疑義照会を集計・分析して、診療科に必要な情報を提供している。</p>	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	○・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 57 回 (含む放射線機器年6回)
<p>・研修の主な内容：</p> <p>人工呼吸器をはじめ、厚生労働省の指導事項である特定管理医療機器の7機種(追加された粒子線照射装置は保有しない)等及び新規採用時の機器に対しての説明会や研修会を、関係する医療従事者に対して、有効性・安全性・使用方法・保守点検に関する事項、その他不具合が発生した場合の対応、使用に際し法令上、遵守すべき事項などについて実施している。(人工呼吸器、人工心肺と補助循環、除細動器、血液浄化装置、閉鎖式保育器、高エネルギー放射線装置、放射線照射装置、輸液ポンプ、シリンジポンプなど)</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・計画の策定 (○・無)</p> <p>・保守点検の主な内容：</p> <p>人工呼吸器、人工心肺と補助循環、除細動器、血液浄化装置、閉鎖式保育器、高エネルギー放射線装置、放射線照射装置、輸液ポンプ、シリンジポンプなどに対して、年度計画にもとづきメーカーによる年1~2回の定期保守点検のほか、使用前・使用中・使用後点検等を、臨床工学部内及び現場の医師・看護師・技士(師)により実施している。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・医療機器に係る情報の収集の整備 (○・無)</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>メーカーや日本医療機能評価機構から出される情報の収集は、関連部署はもとより安全管理室・臨床工学部・事務部資材課にて行われており、必要に応じて、安全管理室より緊急情報として院内に発信される。</p> <p>機器の安全使用を目的とした改善の実施については、機種統一された輸液ポンプのリース期間が満了となるため、さらに安全機構が追加された機種への更新を計画中である。また、旧式の人工呼吸器2台の更新は、今年度の更新が確定している。機器の更新等にあたっては、関連部門における研修会を実施するなどの安全使用のための措置をとっている。</p>	